

一般財団法人 日本建築防災協会発行

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」対応

住宅性能診断士 ホームズ君

耐震診断 Pro



簡単マニュアル

この度は、ホームズ君「耐震診断 Pro」をお買い上げいただきありがとうございます。

ホームズ君「耐震診断 Pro」のマニュアルには、

- ◆簡単マニュアル
- ◆ユーザーズマニュアル
- ◆屋根作成マニュアル
- ◆保有水平耐力計算マニュアル

の4種類がございます。

各マニュアルはPDF形式でご提供しており、起動後の「マニュアル」メニューより閲覧いただけます。

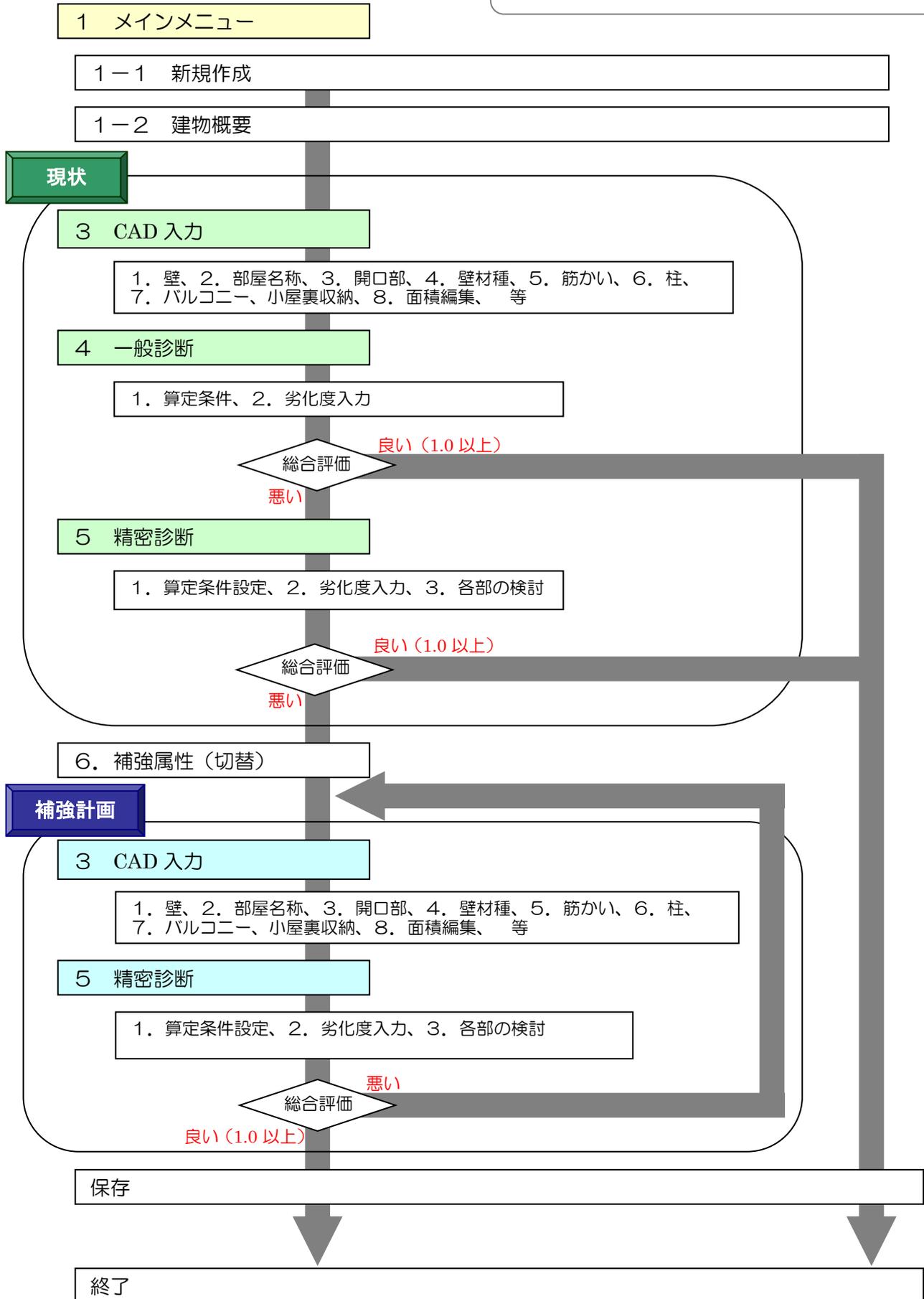
《目次》

<ページ>

耐震診断の流れ	1
起動ライセンスの選択	2
適用範囲、適用対象外の建物	3
1. メインメニュー	4
1-1. 新規作成、ファイルを開く、保存	
1-2. データ連携・連動	
1-3. 建物概要	
2. 下絵読込	7
2-1. 概要	
2-2. 各操作	
3. CAD入力	11
3-1. 壁入力	
3-2. 部屋名称	
3-3. 開口部	
3-4. 開口部属性	
3-5. 建具仕様設定	
3-6. 壁材種	
3-7. 筋かい	
3-8. 木製筋かい接合部	
3-9. 柱	
3-10. 柱頭柱脚接合部	
3-11. 通し柱、柱属性	
3-12. バルコニー、小屋裏収納	
3-13. 基礎部分入力	
3-14. 屋根入力	
3-15. 面積編集	
3-16. CAD平面図印刷	
3-17. リアルタイム3D表示	
3-18. 寸法線	
3-19. 区画自由入力	
4. 一般診断	21
4-1. 算定条件設定	
4-2. 劣化度入力	
4-3. 一般診断（総合評価）	
4-4. 補強アドバイス	
4-5. 耐震3Dビューア	
4-6. 印刷	
5. 精密診断	24
5-1. 算定条件設定	
5-2. 劣化度入力	
5-3. 床倍率部分入力	
5-4. 各部の検討	
5-5. 精密診断（総合評価）	
6. 補強機能	26
6-1. 補強属性	
6-2. 補強数量集計表	
6-3. 補強ナビ	
7. 便利機能	28
7-1. 吹出し入力	
7-2. 画像追加	
7-3. 文字移動	
7-4. 壁情報詳細表示	
7-5. 壁材種設定	
7-6. サポートへメール送信	
7-7. DXFファイル下絵表示、DXFファイル書き出し	
7-8. 階のCAD入力を他の階にコピーする	
8. プレゼンボード<オプション>	32
8-1. プレゼンボード	
8-2. アルバム	
8-3. 絵でみる総合診断書	
8-4. 絵でみる補強計画書	
9. 新耐震検証法<オプション>	35
10. 省エネルギー対策<別売ソフト>	36
11. 注意点	37
プログラム評価について	

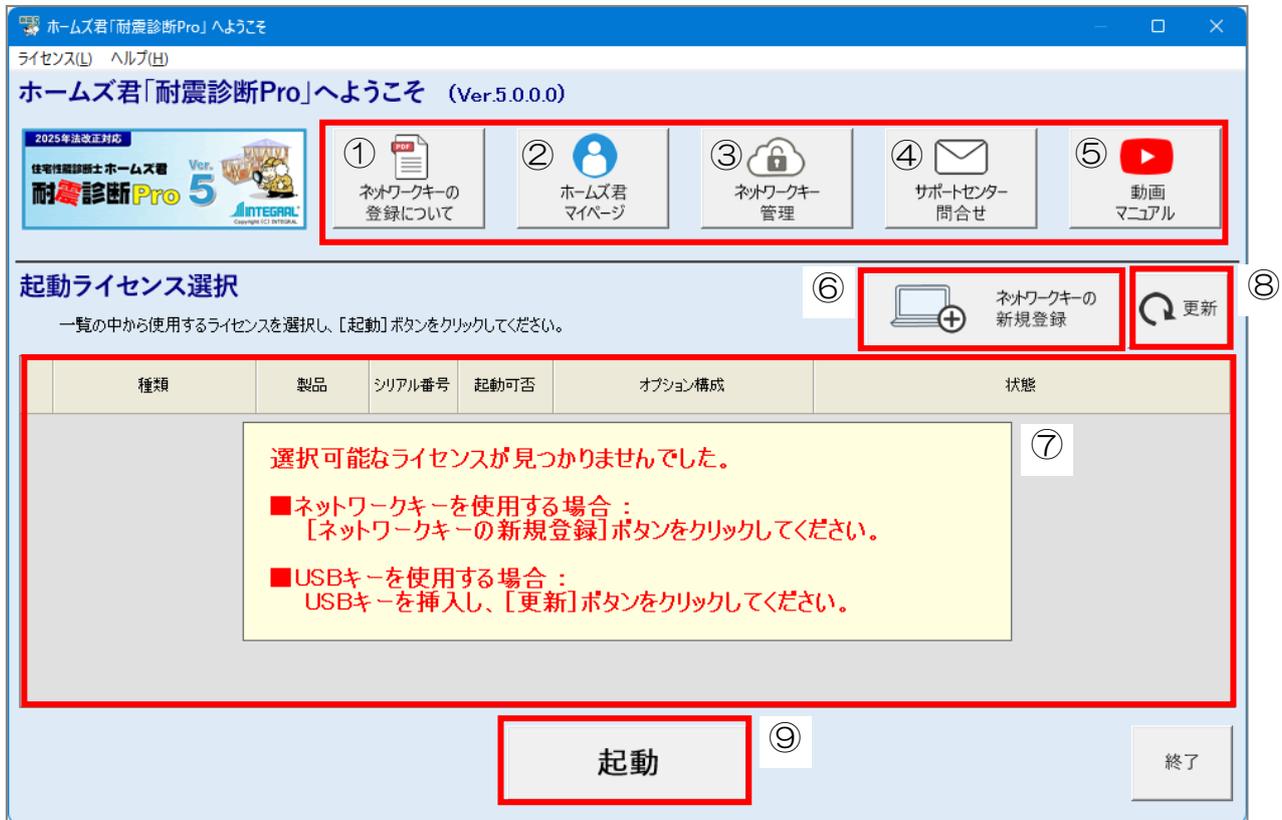
耐震診断の流れ（作業フローチャート）

※この耐震診断・補強の流れはあくまで一例です。
全ての画面において他の画面表示、保存、終了が可能です。



起動ライセンスの選択

ホームズ君「耐震診断Pro」を起動すると、起動ライセンスの選択画面が表示されます。



- ① ネットワークキーで使用する場合の登録方法を表示します。
- ② マイページを表示します。
(マイページでは、インストール用プログラムのダウンロード、ネットワークキーの管理、安心フォーラム会員専用の動画視聴などが行えます。)
- ③ マイページのネットワーク管理画面を表示します。
(ネットワークキーを登録した PC の変更などが行えます。)
- ④ サポートセンターのメール問合せフォームを表示します。
- ⑤ ホームズ君製品の操作マニュアルやセミナー動画の Web ページを表示します。
- ⑥ ホームズ君をネットワークキーで起動するための「シリアル番号」および「ネットワークキー用登録コード」を入力します。
- ⑦ ネットワークキーの登録が完了している場合、または USB キーを PC に挿入している場合、そのライセンス情報（製品名やシリアル番号、オプション構成）が表示されます。
起動したいライセンスを選択して起動します。
- ⑧ 「起動ライセンス選択」画面の更新を行います。
主に以下の場合にお使いください。
 - ・ USB キーを挿入せずに起動してしまった場合
 - ・ 別の PC で使用中のネットワークキーを強制終了し、現在の PC で使用する場合
- ⑨ ⑦ で選択したライセンスでホームズ君を起動します。

適用範囲

- 構法：在来軸組構法、伝統的構法、枠組壁工法
- 階数：3階建てまで
 - ・ 一般診断法、精密診断法、柱頭柱脚接合部（N 値計算）：3 階建てまで判定可能
 - ・ 建築基準法：2 階建てまで判定可能
- 建物規模：X=100m Y=100m
- モジュール幅：910mm（909mm、1000mm など任意に変更可能）
- 階高：2,000mm～3,500mm

- 入力可能な構造、形状：
 - ・ 斜め壁
 - ・ 間崩れ壁
 - ・ ロフト（小屋裏収納）
 - ・ オーバーハング
 - ・ 制震ダンパー
 - ・ インナーバルコニー
 - ・ パラペット

適用対象外の建物

以下の建物はホームズ君「耐震診断 Pro」では入力、計算を行うことができません。
あらかじめご了承ください。

- ・ 四方を壁で囲まれた中庭のある建物
- ・ スキップフロアのある建物
- ・ ペントハウス
- ・ 大屋根（※条件付で対応可能な場合有り）
- ・ ツインタワー等いずれかの階が 2 棟に分かれている建物
- ・ 地下室のある建物

1. メインメニュー



1-1 新規作成、ファイルを開く、保存

- 新規に物件を作成するには？
【新規作成】ボタンをクリックします。
※「建物概要」の画面が自動的に開きます。
- 保存したデータを読み込むには？
【開く】ボタンをクリックします。
※データフォルダ内のファイルが一覧表示されます。
- データを保存するには？
【保存】ボタンをクリックします。
※保存先確認画面が表示されます。
- データを削除するには？
【開く】ボタンをクリックします。
データ選択画面の削除したいデータを右クリックします。

1-2 データ連携・連動（次ページ）

1-2 データ連携・連動

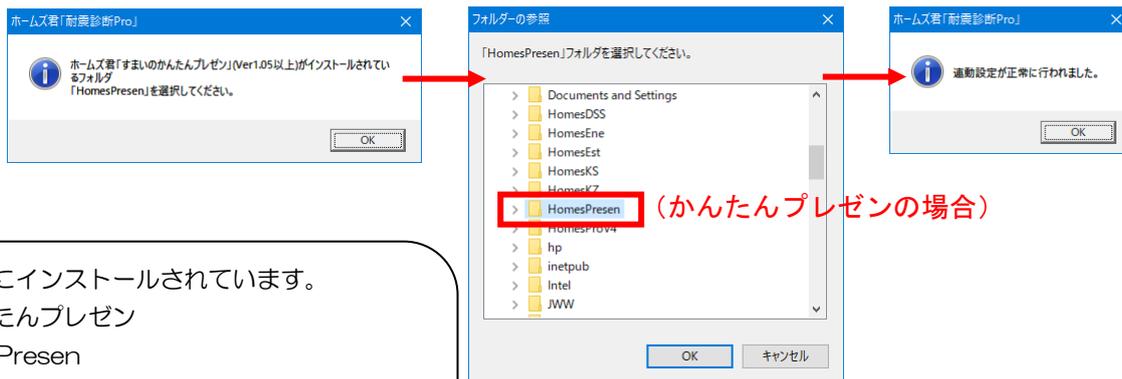
データ連携：耐震診断 Pro で作成した物件データから、主に建物概要・CAD 共通部分を引き継ぎホームズ君他ソフトのデータに変換します。

データ連動：耐震診断 Pro で作成した物件データに、省エネ診断エキスパート（およびパッシブ設計オプション）固有のデータを付加します。

■連携設定（初回のみ）

1. 連携ソフトのUSB を挿入しておきます。

連携ソフトがインストールされているフォルダを設定します。（※初回のみ）



初期設定では以下にインストールされています。

- ・すまいのかんたんプレゼン
C:\¥HomesPresent
- ・省エネ診断エキスパート（パッシブ設計オプション）
C:\¥HomesEne
- ・あっと簡単見積
C:\¥HomesEst

2. 耐震診断 Pro を終了し、連携ソフトが起動します。

■すまいのかんたんプレゼン（データ連携）

■あっと簡単見積（データ連携）

耐震診断 Pro を終了し、すまいのかんたんプレゼンもしくはあっと簡単見積を起動します。

耐震診断 Pro で作成した物件データ（HQQ ファイル）を、すまいのかんたんプレゼンデータ（HKP ファイル）もしくはあっと簡単見積データ（HET ファイル）に変換します。

※耐震診断 Pro 固有のデータは破棄し、主に建物概要や CAD 情報が引き継がれます。

※引き継がれる項目については、ホームズ君「耐震診断 Pro」の「マニュアル」メニューから、「ユーザーズマニュアル」を参照ください。

■省エネ診断エキスパート&パッシブ設計（データ連動）

耐震診断 Pro を終了し、省エネ診断エキスパート（およびパッシブ設計オプション）を起動します。

耐震診断 Pro で作成した物件データ（HQQ ファイル）に省エネ（およびパッシブ）機能のデータを付加する事ができます。耐震診断 Pro に戻り保存します。

※拡張子（HQQ ファイル）は変わりません。

※詳しくは「9 省エネルギー対策<別売ソフト>」（30 ページ）を参照ください。

1-3 建物概要

建物概要 - 財来一部 (在来軸組構法) 0.HQ5

補注属性: 現状 | 作成日: 2012/08/24 17:41:52 | 更新日: 2024/09/05 9:40:00 | データVer: 5.0.0.0

建物名: 財来一部(在来軸組構法) **建物コード: 0**

診断者: 財来一部
建築地名: 千葉県市東2-31-18
竣工年月: 1980年9月 | 築年数: 10年未満
建物用途: 住宅 | 階数: 2階建て

モジュール幅: 910 (mm)

建築基準法選択: 2000年基準 (2026年3月まで) / 2025年基準 (2026年4月～)

必要壁量割断(地震力): 算入しない / 算入する (係数: 1.00)

風圧力・見付面周りに乗ずる値(cm/nP): 一般地帯: 50 / 強風地帯: 75

状況	対策	選択
地盤: 悪い	表層の地盤改良を行っている	<input checked="" type="radio"/>
地盤: 非常に悪い (埋立地・盛り土、軟弱地盤)	柱基礎である 特別な対策を行っている その他	<input type="radio"/>
地形: 平坦	コンクリート擁壁	<input checked="" type="radio"/>
地形: かけ地・急斜面	石積	<input type="radio"/>
地形: 特別な対策を行っている		<input type="radio"/>
形式	状況	選択
鉄筋コンクリート基礎	健全	<input type="radio"/>
鉄筋コンクリート基礎	ひび割れが生じている	<input type="radio"/>
鉄筋コンクリート基礎	健全	<input checked="" type="radio"/>
鉄筋コンクリート基礎	軽微なひび割れが生じている	<input type="radio"/>
鉄筋コンクリート基礎	ひび割れが生じている	<input type="radio"/>
玉石基礎	築年の異なるコンクリート基礎積層	<input type="radio"/>
玉石基礎	定型的のみまたは定型的なし	<input type="radio"/>
その他		<input type="radio"/>

入力必須項目

「建物名」+「建物コード」が保存するファイル名になります。

■建物概要を設定

- 建物の概要情報を設定入力します。
- 建物名、建物コードは、必須入力です。⇒保存されるファイル名になります。
- 「モジュール幅」は、壁が入力されると、変更できなくなりますのでご注意ください。
- 通芯の表示方法を設定できます。

2 下絵読込

2-1 概要

■概要

- 平面図を JPEG・GIF・BMP 形式等で保存した画像ファイルや、画面をコピーしたクリップボード情報を、下絵として読み込みます。
- 自宅の間取りを即座に入力したいときに役に立ちます。

2-2 各操作



1 ファイルを選択

ファイルを選択し、下絵として読み込みます。
読込可能なファイル形式は、JPG、PNG、BMP、GIF、PDF、JWW、DXF です。

Tips 画像ファイルを直接画面上にドラッグすることで、画像を読み込むこともできます。

2 クリップボード貼付

Alt+PrintScreen や Windows+Shift+S でウィンドウをコピーした後、「クリップボード貼付」ボタンをクリックすると、下絵として表示することができます。

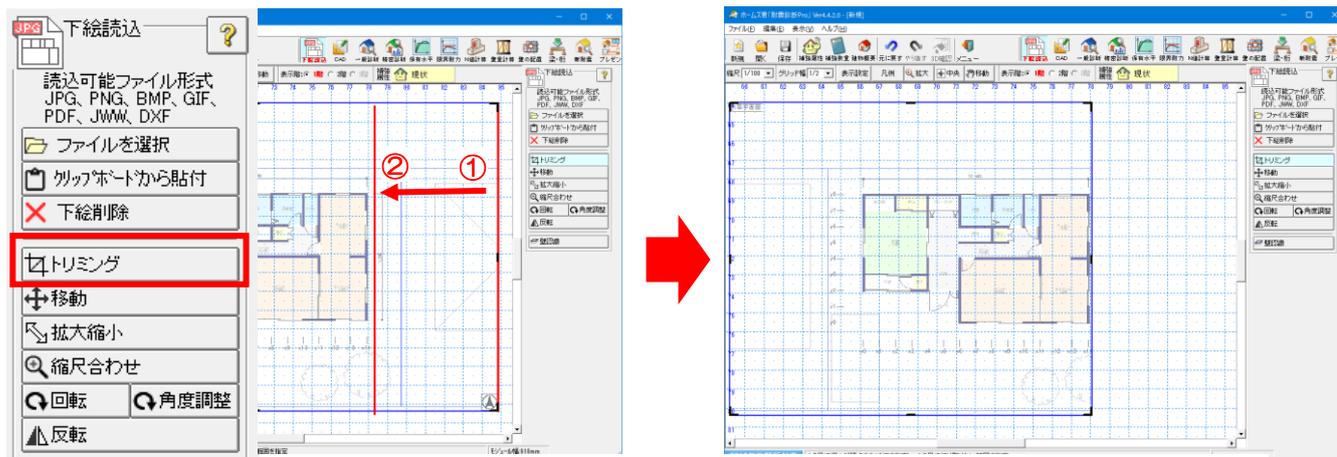
3 下絵削除

読み込んだ下絵を削除します。

Tips 3～11 の各操作は、CAD 入力画面の下絵を右クリックすることでも使用可能です。

4 トリミング

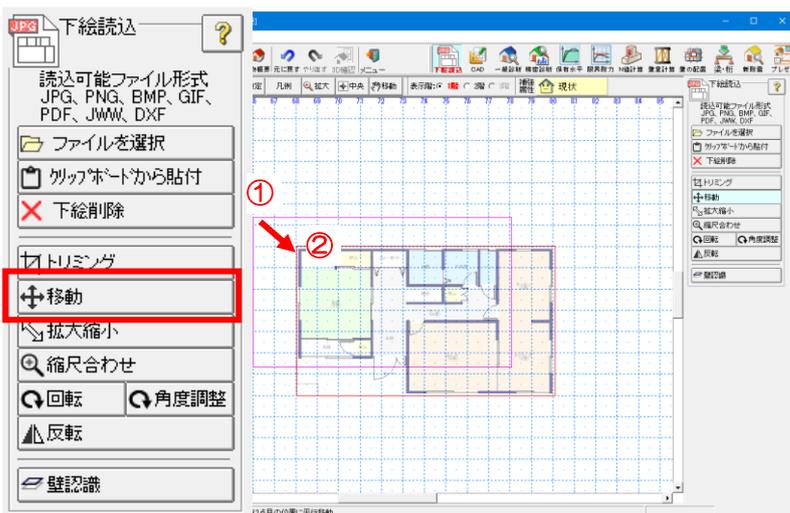
表示している下絵を必要な部分だけ切り取る操作を行います。



- ① 枠の辺または頂点をクリックすると切り取り範囲の変更できます。
- ② 再度クリックすることで切り取り範囲を確定させます。

5 移動

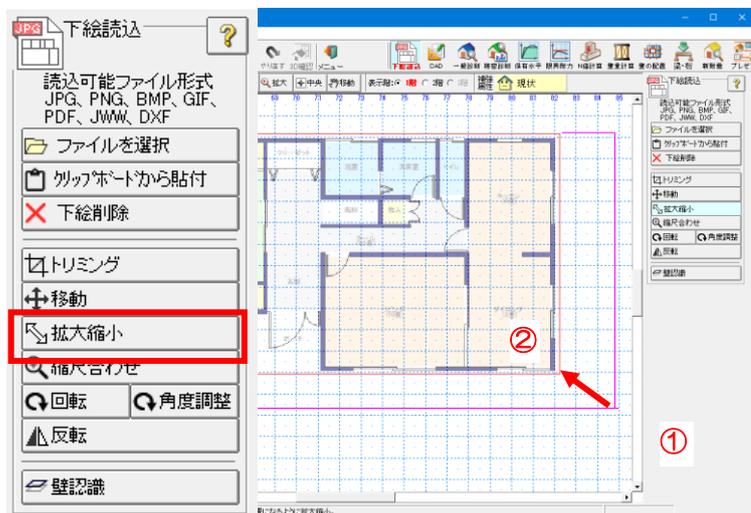
表示している下絵を移動します。



- ① 下絵をクリックすると移動可能となります。
- ② 再度クリックすると下絵の移動位置を確定させます。

6 拡大縮小

下絵の拡大縮小を行います。



- ① 下絵の枠線の角をクリックすると変更可能となります。
- ② 再度クリックで確定します。

7 縮尺合わせ

画面上の2点間の距離をもとに縮尺を設定します。

①基準となる値を選択、又は任意で入力して値を設定します。
②下絵に対して2点をクリックすることで①の基準をもとに縮尺合わせを行います。

8 回転

画像を回転する操作を行います。

①下絵をクリックすると回転可能になります。
②再度クリックすると確定します。

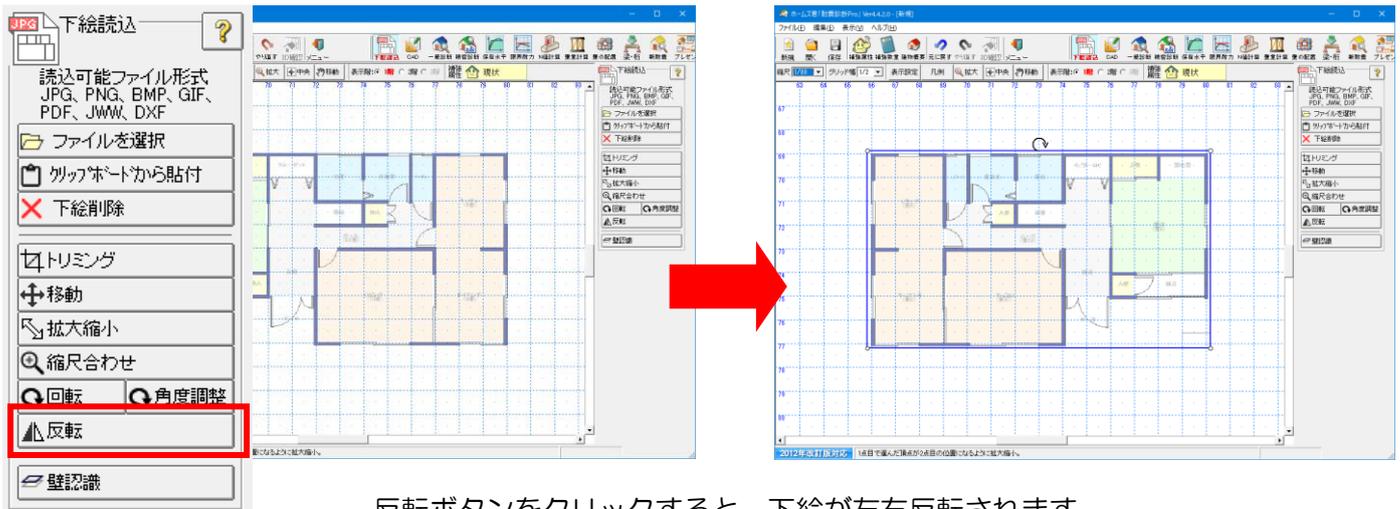
9 角度調整

基準線を用いて下絵の角度を調整します。

①垂直線か水平線かを選択します。
②1で選んだ基準をもとに、下絵に対して正しい垂直線又は水平線になるようにクリックで二点を選択すると角度を調整できます。

10 反転

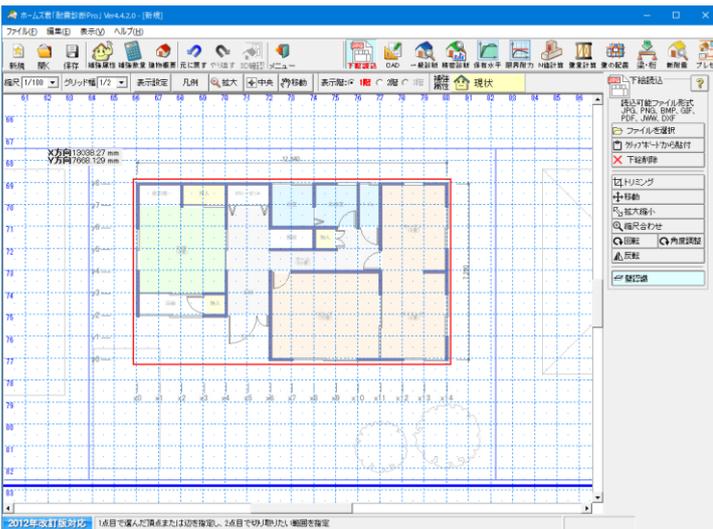
下絵を左右反転します。



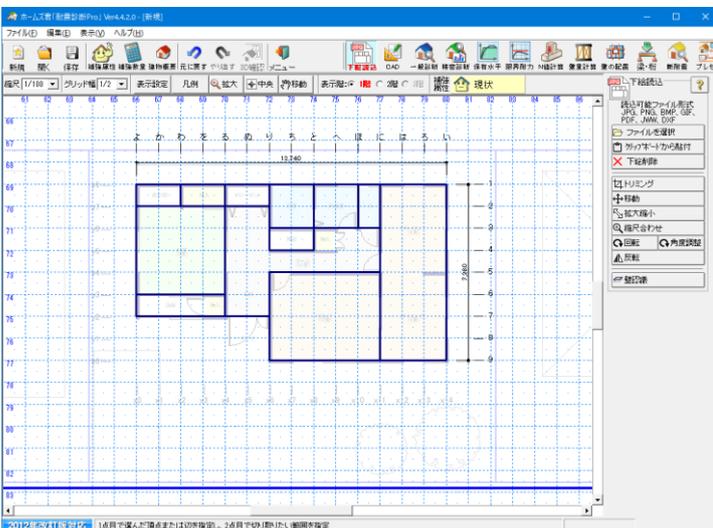
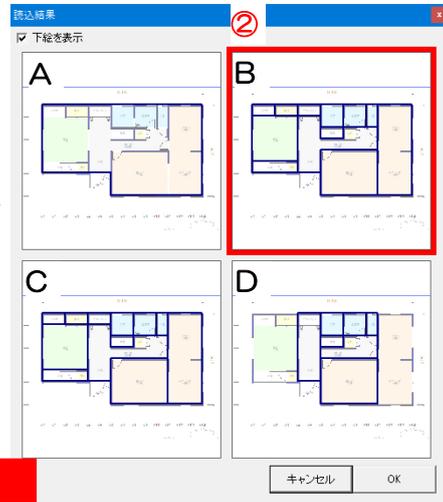
反転ボタンをクリックすると、下絵が左右反転されます。

11 壁認識

表示されている下絵から壁の位置を認識してCADに入力します。



Tips A : 外壁のみ自動認識したものです。
B~D : 外壁および内壁を自動認識したものを
3パターン表示したものです。
実状に近いものを選択してください。

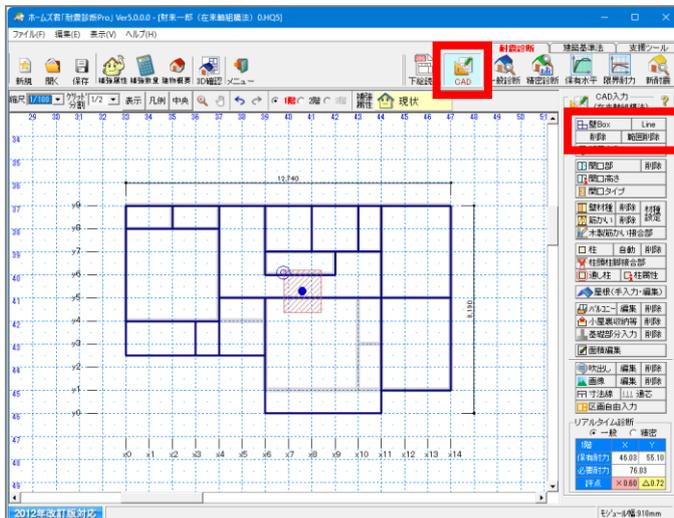


- ① 下絵の自宅の範囲をBOX入力します。
- ② 結果の候補が現れるので適したものを選択してください。

選択した結果が壁としてCADに入力されます。

3 CAD入力

3-1 壁入力



■入力方法

- 「Box」は、2点入力です。
対角にクリックすると「矩形」が、
平行（垂直）にクリックすると「直線」が
描けます。
- 「Line」は、2点入力です。
斜めの壁を描くことができます。
- 「削除」は、2点入力です。

■ポイント

- 間取りを入力するイメージで、部屋が壁で
閉じられるように入力します。
- 開口がある部分も含めて壁を入力します。
- 玄関ポーチがある場合は1階に入力します。
- 基礎のない出窓は、省略してもかまいません。
- 壁は重ね書きをしてもかまいません。

■範囲削除

▼操作方法

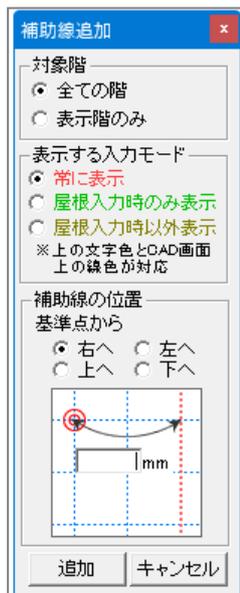
- マウスで2点指示です。
- 囲んだ範囲の全ての、壁、開口部、柱、筋かい、バルコニー、
小屋裏収納を削除します。

■間崩れ壁の入力



▼方法① グリッド分割

- 1/2、1/3、1/4、1/6、1/8、1/10 のいずれかを選択します。
- ※303mmの入力は「1/3」と設定すれば入力が可能です。
(910 モジュールの場合)



▼方法② 補助線追加

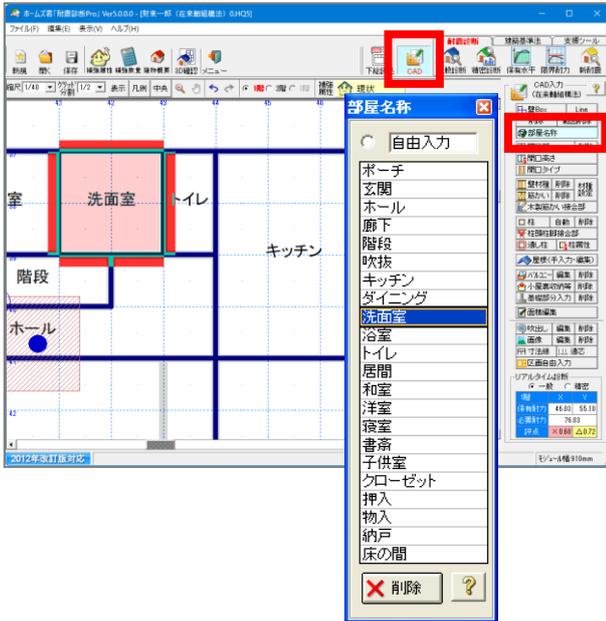
- 「編集(E)」メニューの「補助線追加」を選択します。
 - 追加する補助線の基準となる点をクリックします。
(補助線追加ウィンドウが表示されます。)
 - 追加する補助線の方向(縦、横)を選択します。
 - 基準点からの距離(mm)を入力します。
 - 「追加」ボタンをクリックします。
- ※画面上に補助線(赤い破線)が表示されます。
※mm 単位の壁の入力が可能になります。



▼方法③ モジュール幅部分変更

- 「編集(E)」メニューの「モジュール幅部分変更」を選択します。
 - 幅を変更したいグリッド線間をクリックします。
指定したモジュール線間が薄紫色で表示され、
モジュール幅変更ウィンドウが表示されます。
 - 幅を変更したい方向(横幅、縦幅)を選択します。
 - モジュール幅(mm)を入力します。
 - 「変更」ボタンをクリックします。
- ※モジュール幅が異なる部分は赤文字で幅の長さが表示
されます。
※モジュール幅は 100~3000(mm)で設定できます

3-2 部屋名称



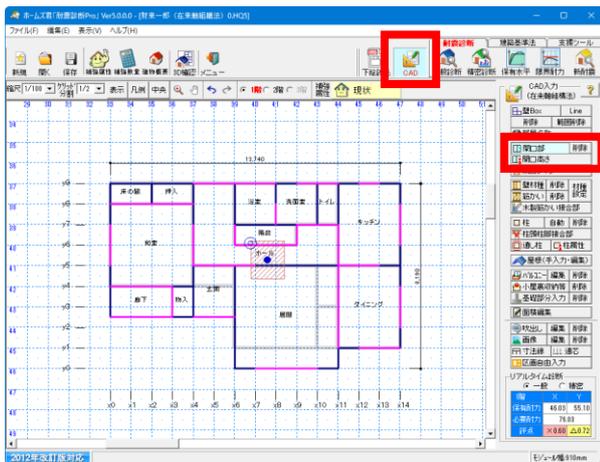
■入力方法

- 1点入力です。
- 「部屋名」を一覧から選択し、対象となる部屋の内部をクリックします。

■ポイント

- 「階段」と「吹抜」は耐震診断に考慮されます。
(一般診断の床仕様、精密診断の床倍率)
- 「ポーチ」「吹抜」の面積は、
⇒耐震診断(一般/精密)の床面積に加算します。
⇒建築基準法の床面積には加算されません。

3-3 開口部



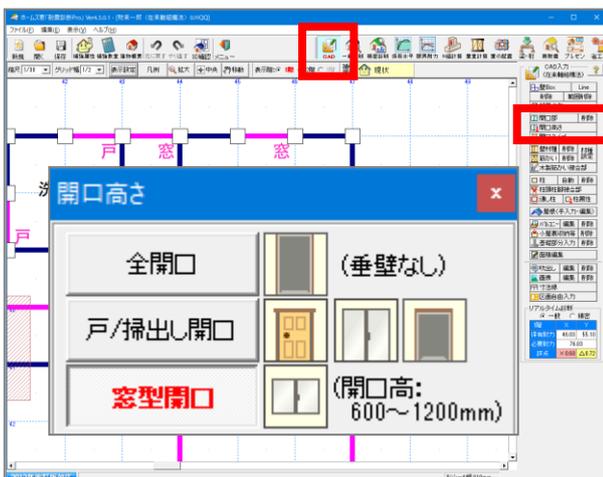
■入力方法

- 2点入力です。
- 開口の位置を、壁の上に重ねて入力します。
- ドアや窓を区別する必要はありません。

■ポイント

- 階段の入り口や玄関框なども開口部として入力します。
- ポーチの壁が無い面にも開口部を入力します。

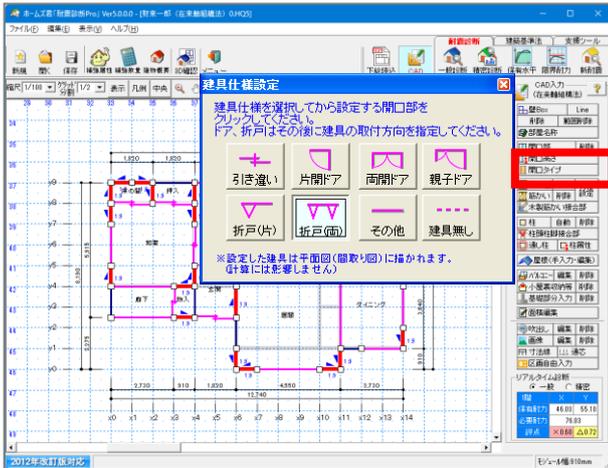
3-4 開口高さ



■入力方法

- 1点入力です。
- 種類(全開口/戸/窓)を選択し、対象となる開口部をクリックします。

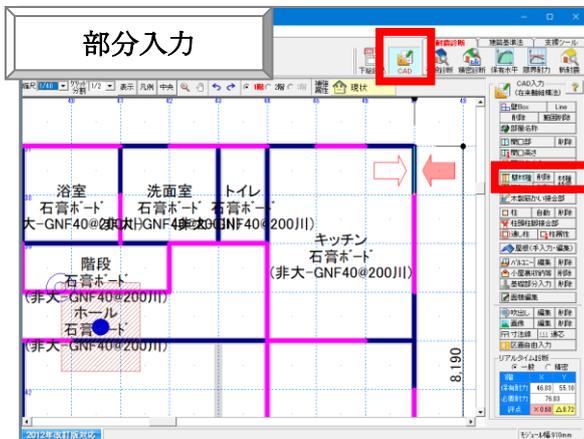
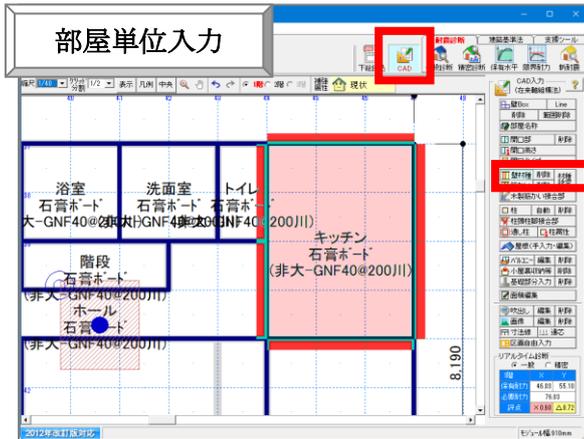
3-5 開口タイプ



■入力方法

- 1点入力です。
- 建具仕様を選択し、対象となる開口部をクリックします。
- 「ドア」「折戸」は、クリック後に取り付け方向をしていし、もう一度クリックします。

3-6 壁材種



壁材種

▼モード: 現状 補強計画

▼入力方法

部屋単位 部分入力 部分変更 部分削除

「部分入力」は「部屋単位」よりも優先です。

耐力壁
 内壁材
 外壁材
 土塗り壁

※...ユーザー定義 (非)非耐力壁仕様

コード	材種	基準耐力
301	構造用合板(非大-N50@200川)	2.30
302	構造用合板(非大-FN50@150四)	4.50
303	構造用合板(非大-ビス@150四)	3.40
304	構造用合板(非真-N50@200川)	3.00
305	石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50
306	石膏ボード(非大-GNF25@150四)	1.60
307	石膏ボード(非大-ビス@150四)	2.20
308	石膏ボード(非真-GNF40@200川)	1.30
309	合板長尺	0.90
310	ラスボード	1.00
311	ラスボード下地漆喰塗	1.30
312	ラスボード下地珪砂塗	1.80
313	不明(耐力有)	0.00
314	耐力無	0.00

▼施工仕様

○ 通常

○ 大壁胴縁下地(N75@200以下)

○ 大壁胴縁下地(それ以外)

▼釘補正

釘補正係数:

▼面材・土塗り高さ補正

壁高さ比:

※壁高さ比 = 面材高さ / 構架材内法間距離 (最小値0.7 無開口壁のみに影響)

注)一般診断では、「不明(耐力有)」の面がある壁は、もう一方の面と軸組の耐力合計と2.0kN/mのうち、大きい方の耐力があるものとします。

壁の材種を設定します。
種類により入力方法が異なります。

■入力方法

- ・「部屋単位」で各部屋の壁下地材を設定します。
- ・部分的に壁の仕様が違う部分を「部分入力」します。

▼モード

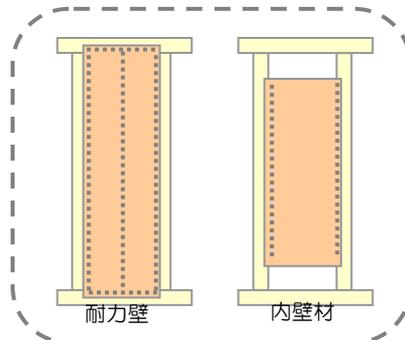
- 「現状」・・・現状(既存)の壁下地材として入力する場合
- 「補強計画」・・・補強計画時の壁下地材として入力する場合

▼入力方法

- 「部屋単位」・・・部屋内の壁下地材を一括設定します。
 - 「部分入力」・・・1、2点目で幅を、3点目で取り付く面を指定します。
- ※「部屋単位」と「部分入力」では、「部分入力」が優先されます。

▼材種選択

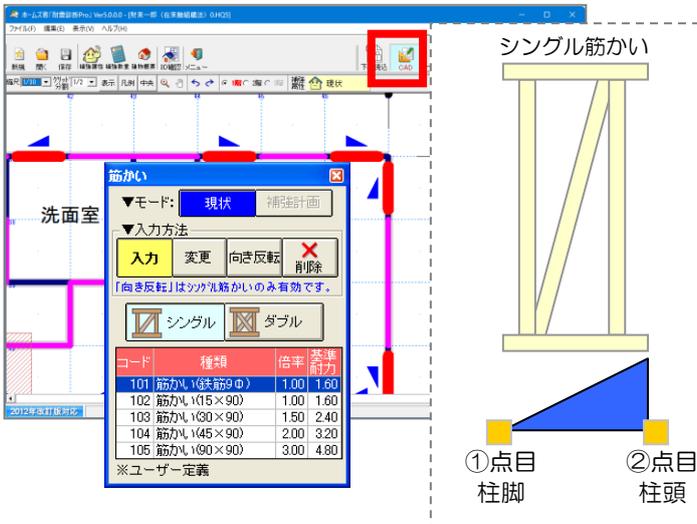
- 「耐力壁」・・・基準法における耐力壁仕様の壁
 - ※横架材間に張られている等
- 「内壁材」「外壁材」・・・耐力壁仕様に満たない施工、または材種
 - ※床から天井まで施工の壁等
- 「土塗り壁」・・・軸組み内に設定
 - ※初期値は「耐力無」です。
 - ※「壁材種設定」により、任意の壁材種を設定することが出来ます。
 - ※仕様に応じて「施工仕様」「釘補正」「面材・土塗り高さ補正」を変更してから入力します。



■ポイント

- ・不明(耐力有)の面材は、基準耐力は0.0です。ただし、一般診断では『不明(耐力有)の面がある壁』は、『もう一方の面と軸組の耐力の合計』と『2.0kN/m』のうち、大きいほうの耐力があるものとします。また、精密診断法1や補強計画の一般診断では不明(耐力有)があると診断が行えません。

3-7 筋かい



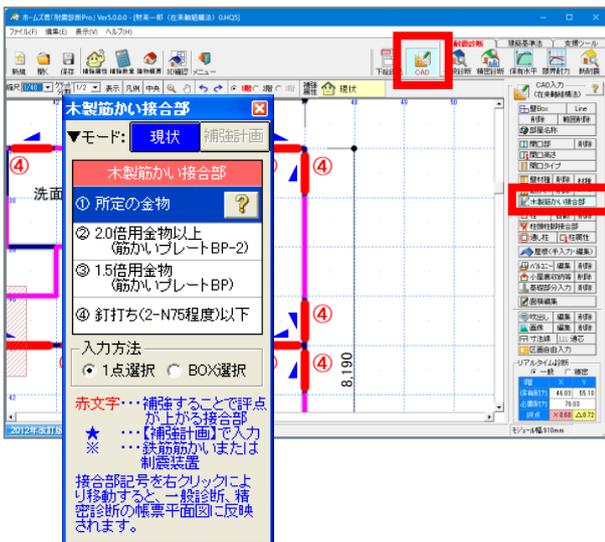
■入力方法

- 2点入力です。
- 「シングル」の場合
1点目＝柱脚、2点目＝柱頭
- 「ダブル (たすきがけ)」
柱頭柱脚は関係ありません。

▼モード

- 「現状」・・・現状(既存)の筋かいとして入力する場合
- 「補強計画」・・・補強の筋かいとして入力する場合

3-8 木製筋かい接合部



■入力方法

- 1点入力です。
- 仕様「①～④」を選択し、対象となる筋かいをクリックします。

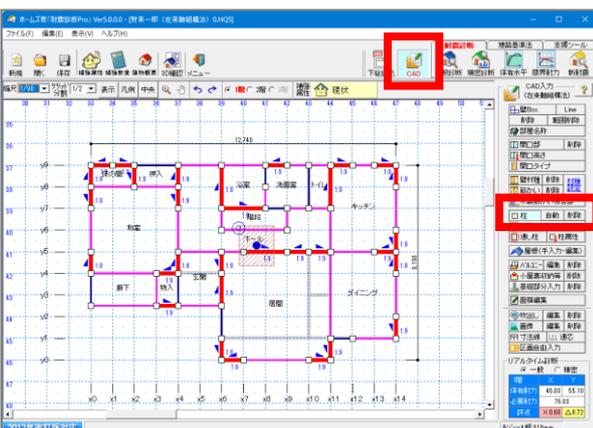
▼モード

- 「現状」・・・現状(既存)の接合部として入力
- 「補強計画」・・・補強の接合部として入力

▼入力方法

- 1点選択：1つずつ設定を行います。
- BOX 選択：選択した範囲内のものに対して一括設定を行います。

3-9 柱



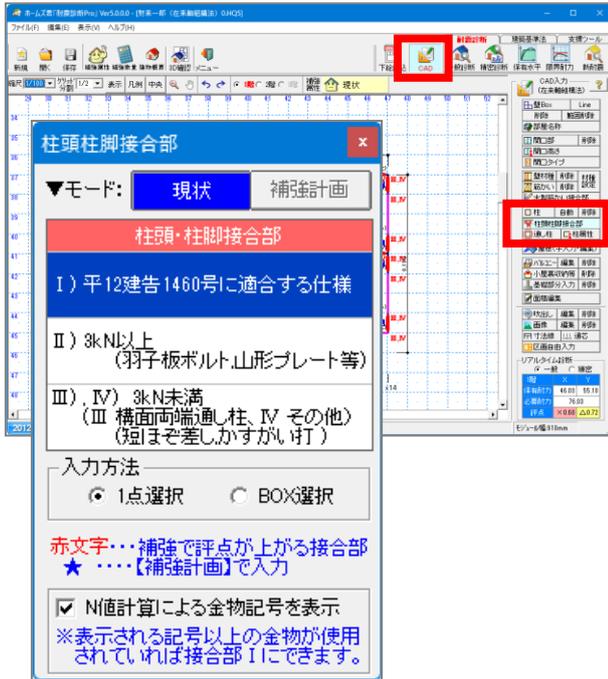
■入力方法

- 柱の位置をマウスで1点入力します。
- 再度クリックすることで削除できます。

▼自動

- 「自動」ボタンは、部屋の端部、開口部の両端、耐力壁の両端に柱を自動配置します。

3-10 柱頭柱脚接合部



■入力方法

- 金物仕様を選択します。
- 設定対象の「柱」をクリックします。

▼モード

- 「現状」・・・現状(既存)の接合部として入力
- 「補強計画」・・・補強の接合部として入力

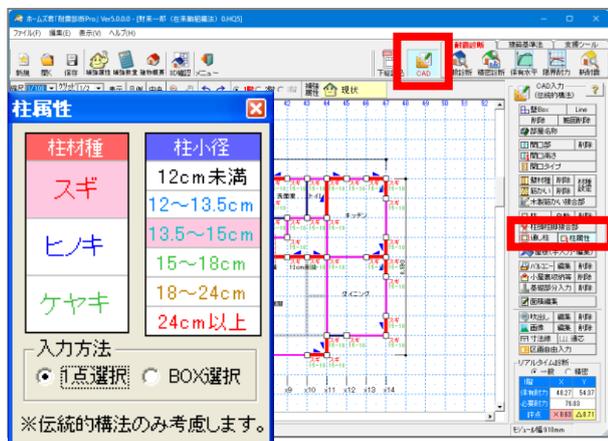
▼入力方法

- 1点選択：1つずつ設定を行います。
- BOX選択：選択範囲を一括設定します。

■ポイント

- 記号が赤色で表示される柱は、金物補強することで評点上がることを表しています。
- 補強モードで入力した場合は、記号の後ろに★が付きます。
- 柱の左上の記号は、N値計算の算定結果を表しています。(N値計算の算定結果を表示するには「N値計算オプション」が必要です)

3-11 通し柱、柱属性



■通し柱

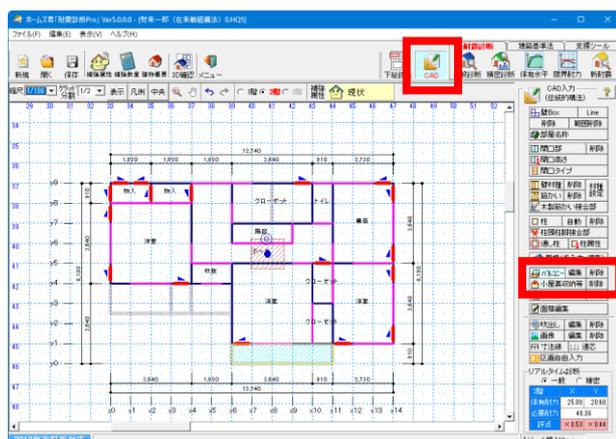
(一般診断、精密診断の接合部低減係数に関連)

- 対象となる柱をクリックします。
- 上下階の柱の位置が一致していないと設定できません。

■柱属性 (伝統的構法の場合のみ考慮)

- 「材種」と「柱の小径」を選択し、対象となる柱をクリックします。

3-12 バルコニー、小屋裏収納



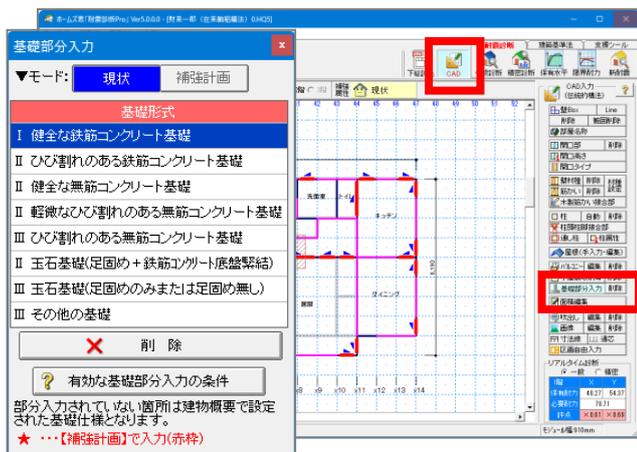
■入力方法

- マウスで多角形入れます。
- 一般診断、精密診断や基準法計算における床面積に算入します。

■ポイント

- ここでいうバルコニーとは、構造上建物と一体になっているものが対象です。

3-13 基礎部分入力



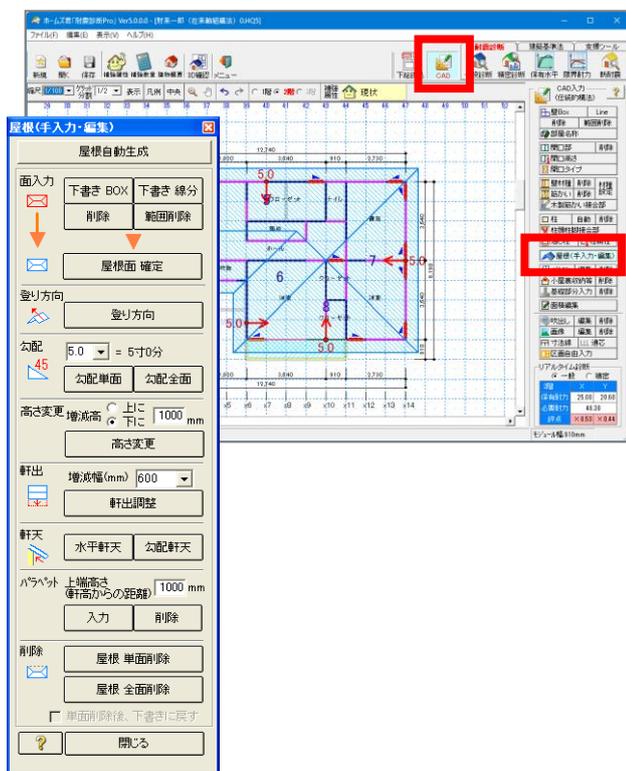
■入力方法

- モードを確認します。(現状/補強計画)
- 一覧から入力する基礎の仕様を選択します。
- マウスで2点入力します。

■ポイント

- 主に、補強で、既存の無筋コンクリート基礎に鉄筋コンクリートの基礎を抱き合わせて補強する際などの入力に使用します。

3-14 屋根入力



■入力方法

屋根の手入力は、

- ①「屋根下書き線の入力」
- ②「屋根面の確定」

の順で行います。

▼面入力

- 下書きBOX、下書き線分
屋根下書き線を入力します。
- 削除、範囲削除
屋根下書き線を削除します。
- 屋根面確定
屋根下書き線で描かれた面を屋根として確定させます。

▼登り方向

屋根に登り方向を設定します。

▼勾配

屋根勾配を設定します。

▼高さ変更

屋根の高さを変更します。

▼軒出

屋根の軒出を設定します。

▼軒天

軒天形状を設定します。

▼パラペット

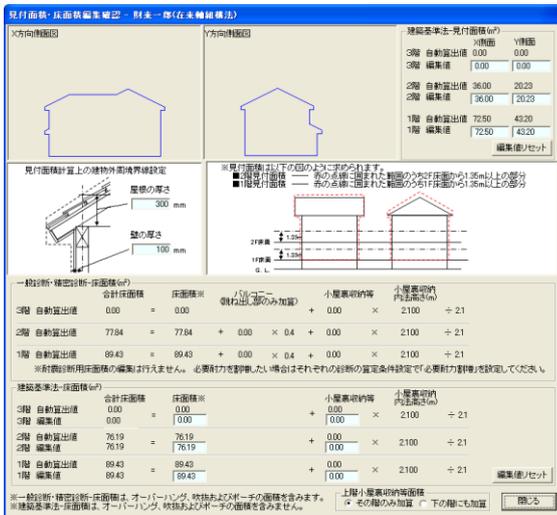
屋根の上に乗るパラペットを入力します。

▼削除

- 屋根 単面削除：屋根を削除します。
- 屋根 全面削除：表示階の全ての屋根を削除します。

※より詳細な操作方法につきましては、
ユーザーズマニュアルをご参照ください。

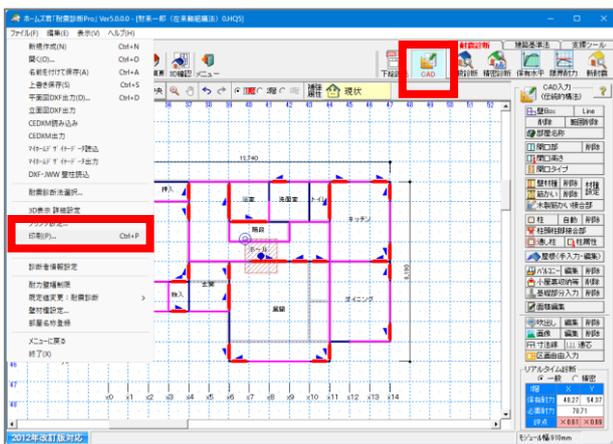
3-15 面積編集



■ポイント

- 基準法壁量計算用の床面積および見付面積を確認・編集できます。
- 見付面積計算用の屋根の厚さ、壁の厚さを設定できます。
- 一般診断、精密診断用の床面積は編集できません。診断者の判断により床面積を割り増して考慮したい場合は、一般診断、精密診断1の算定条件設定で行ってください。

3-16 CAD 平面図印刷



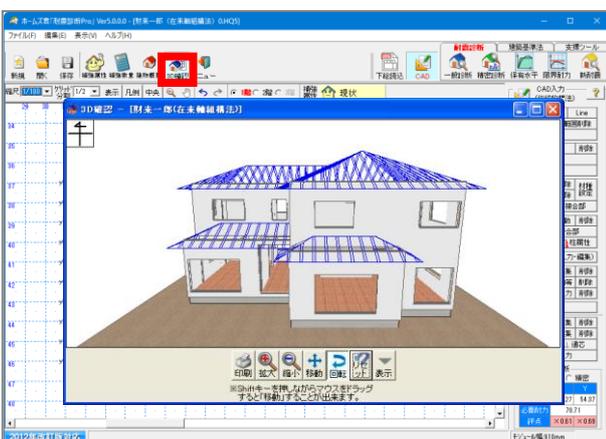
■使用方法

- メニューバーの「印刷」をクリックします。
- CAD 入力画面の平面図を印刷できます。

■ポイント

- 表示項目は、画面表示の設定で自由に切り替え可能です。
- 表示設定した内容が印刷にも反映されます。

3-17 リアルタイム3D表示



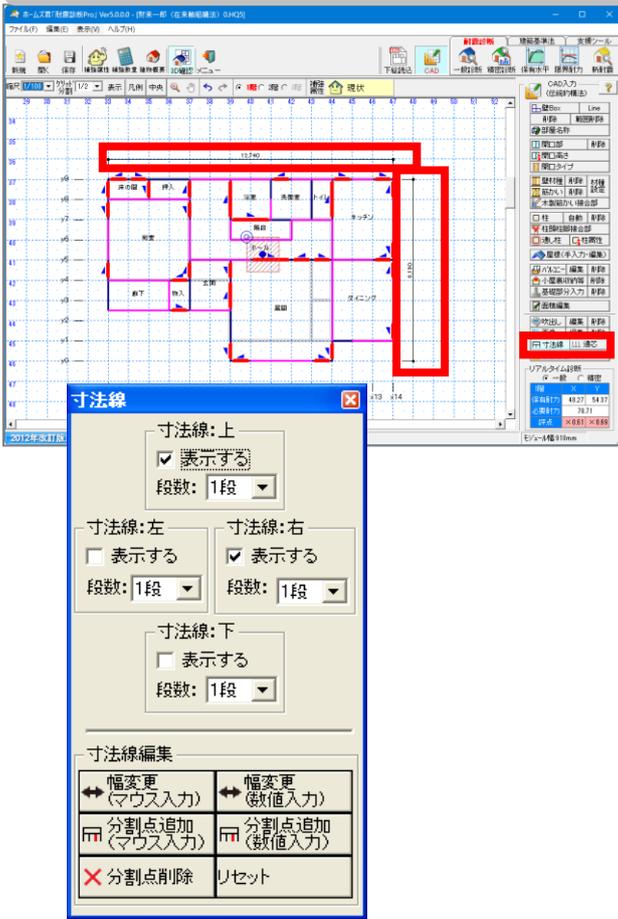
■使用方法

- メニューバーの「3D確認」をクリックします。

■ポイント

- 建物を回転させることができます。
- [表示]をクリックすると表示設定パネルが表示されますので、表示したい部位を選択することができます。
(初期状態では非表示となっています)

3-18 寸法線



■使用方法

- 上下左右の寸法線のうち、【表示する】にチェックを入れた寸法線が表示されます。
【段数】は6段まで表示することができます。

＜寸法線編集＞

- ▼分割点追加：寸法線上に分割点を追加します。
分割点ごとに寸法を表示します。

- マウス入力
 - ①寸法線をクリックします。
 - ②分割点を追加したい位置をクリックします。
※②の前にマウスを右クリックすると、入力をキャンセルできます。
- 数値入力
 - ①寸法線上の端点（分割点）をクリックします。
 - ②①を基準点とし、分割点までの長（mm）を数値入力します。

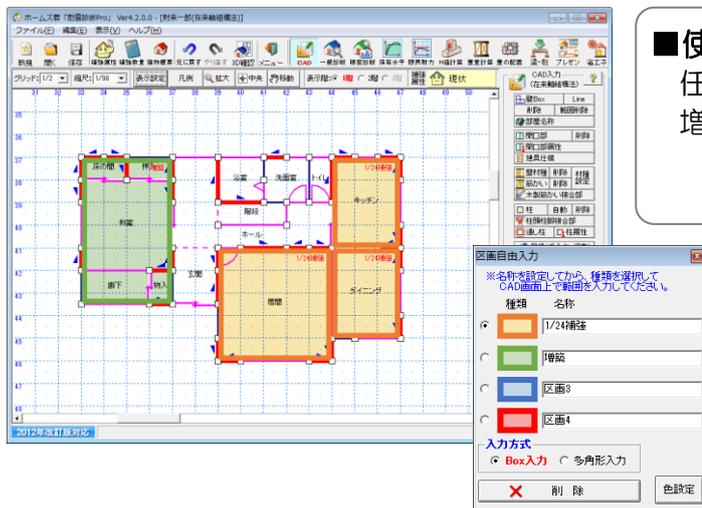
- ▼幅変更：端点、及び分割点の位置を移動させることができます。

- マウス入力
 - ①寸法線上の端点（分割点）をクリックします。
 - ②マウスを移動して位置を変更します。
※②の前にマウスを右クリックすると、入力をキャンセルできます。
- 数値入力
 - ①寸法線上の端点（分割点）をクリックします。
 - ②①を基準点とし、移動幅を数値入力します。

- ▼分割点削除：追加した分割点を削除します。

- ▼リセット：寸法線を初期状態に戻します。

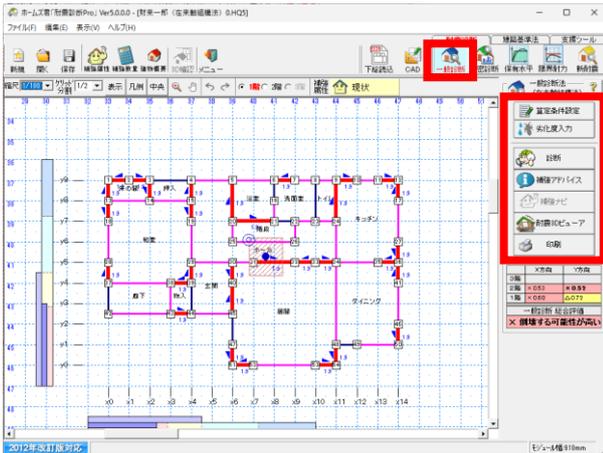
3-19 区画自由入力



■使用方法

- 任意の区画を色分けして表示できます。
増築区画、補強区画などを示したい場合に使用します。

4 一般診断

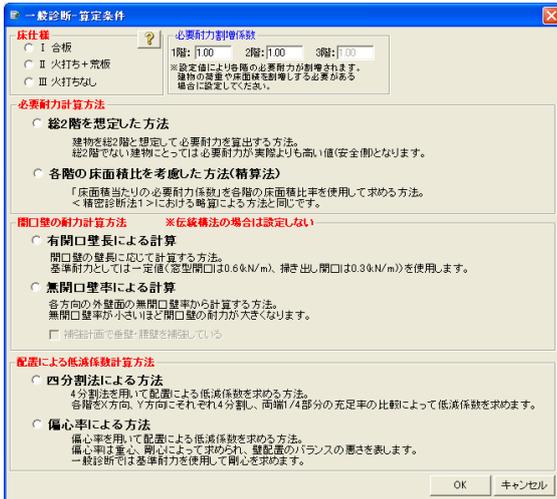


一般診断では、耐震補強の必要性の判定を目的としています。建物の持つ耐力（保有耐力）を「設計上の耐力」「壁の配置バランス」「劣化度（建物全体）」の3要素から求めます。

総合評価は、階、方向ごとに「倒壊しない」から「倒壊する可能性が高い」の4段階で表されます。

診断結果をグラフ表示や3次元CG表示することで、地震被害が想定される箇所を視覚的に表現します。

4-1 算定条件設定



■設定項目

- ▼床仕様
- ▼必要耐力割増係数
- ▼必要耐力計算方法
 - ・「総2階を想定した方法」と「各階の床面積比を考慮した方法」が選択可能
- ▼開口壁の耐力計算方法
 - ・「有開口壁長による計算」と「無開口壁率による計算」が選択可能
- ▼配置による低減係数計算方法
 - ・「四分割法による方法」と「偏心率による方法」が選択可能
 - ★「精算法」が選択されている場合は自動的に「偏心率による方法」となります

4-2 劣化度入力

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数
			築10年未満	築10年以上	
屋根 瓦葺り	塗層	剥離、さび、さび穴、すれ、めくれがある	2	2	0
	瓦スレート	割れ、欠け、すれ、欠落がある	2	2	0
	軒・存心樋	剥離、さび、割れ、すれ、欠落がある	2	2	0
外壁仕上げ	漆喰	剥離、さび、割れ、すれ、欠落がある	2	2	0
	木製板、合板	水濡み痕、こげ、割れ、接ぎ跡、すれ、腐敗がある	4	4	0
	塗層サイディング	剥離、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	4	4	0
露出した部材	モルタル	剥離、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	2	2	0
	コンクリート	水濡み痕、こげ、腐敗、接ぎ跡、すれ、腐敗がある	2	2	0
	手すり	剥離、さび、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	1	1	0
内壁	塗層サイディング	剥離、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	1	1	0
	漆喰	剥離、さび、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	1	1	0
	外壁との接合部	剥離、さび、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	1	1	0
床	床板	腐敗、過度の揺動、床鳴りがある	2	2	0
	床下	腐敗、過度の揺動、床鳴りがある	2	2	0
	床下	腐敗、過度の揺動、床鳴りがある	2	2	0
合計			24	7	0.70

劣化度による低減係数 D

■入力方法

- ・各部位に劣化した部分があれば該当項目にチェックを付けます。
- 「部位なし」：建物に対象部位が存在しない場合
- 「劣化あり」：建物に対象部位が存在し、劣化が認められる場合
- 「劣化なし」：建物に対象部位が存在し、劣化が認められない場合

4-3 一般診断（総合評価）

地盤・基礎

項目	状態	対策	選択	注意事項(必須入力)	入力例
地盤	よい・普通		●		
	悪い	表面の地盤改良を行っている	●		
地形	平坦	コンクリート擁壁	●	注意事項(必須入力)	入力例
	がけ地・急斜面	石積	●		
基礎	鉄筋コンクリート基礎	健全	●	注意事項(必須入力)	入力例
	無筋コンクリート基礎	ひび割れが生じている	●		

上部構造評点

階	方向	軸の耐力 Qu (kN)	配置係数 ektf	変化率係数 dk	保有耐力 esQu (kN)	必要耐力 Or (kN)	評点 esQu/Or	判定
3	X				23.26	46.38	0.50	× 倒壊する可能性が高い
	Y	32.24	1.000	0.70	23.09	46.38	0.49	× 倒壊する可能性が高い
2	X	32.99	1.000		46.03	78.71	0.58	× 倒壊する可能性が高い
	Y	65.77	1.000		55.10	78.71	0.70	△ 倒壊する可能性がある
1	X	91.32	0.968					
	Y							

総合評価

上部構造評点のうち最低の値	評点	判定
0.49	1.5以上	◎ 倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○ 一定倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△ 倒壊する可能性がある
	0.7未満	× 倒壊する可能性が高い

一般診断の診断結果が確認できます。

■地盤・地形・基礎

- 各項目について注意事項を記述します。

■上部構造評点

- 必要耐力と保有耐力から評点を求め、表示されます。
- どの階のどの方向が耐震性が低いかが一目でわかります。

■総合所見入力

- 診断者からの注意事項等を入力することができます。
- 入力内容は、計算書にも印刷されます。

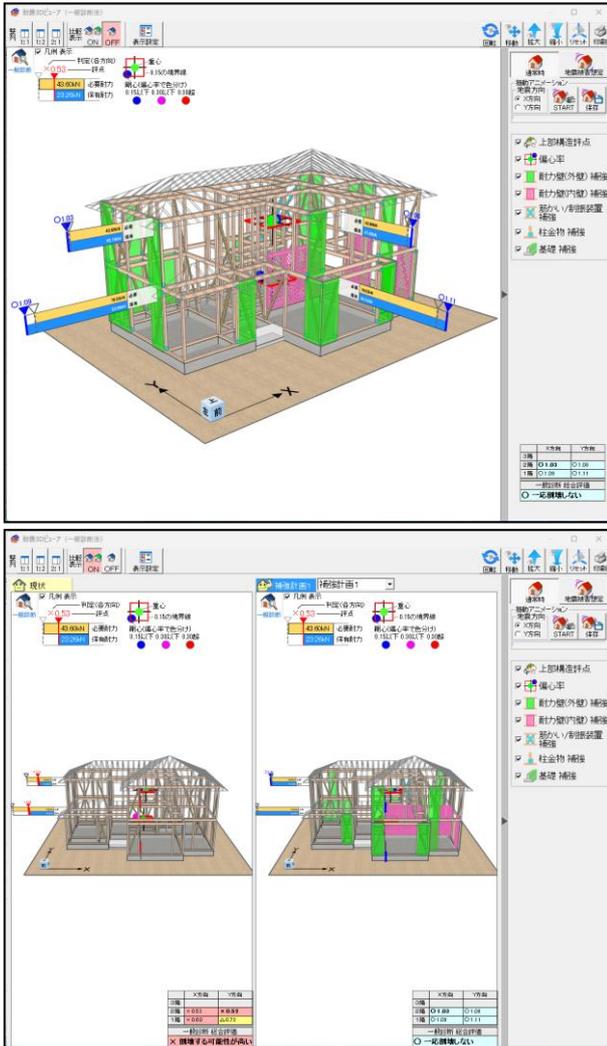
4-4 補強アドバイス

分類	項目	アドバイス	場所
バランス	偏心率		
地震性	一般壁		
	筋かい	筋かいを追加・強化することによって評点を上げることができます。	1階×、Y方向
開口	木製筋かい接合部		
	柱頭柱脚接合部	両側の柱の接合部の強さが十分でない場合がありますので、強固な接合部を設けることによって評点を上げることができます。	1階×、Y方向
外壁面材	外壁面材	外壁に耐力耐力壁を設けることによって評点を上げることができます。	1階×、Y方向
	内壁面材	内壁に耐力耐力壁を設けることによって評点を上げることができます。	1階×、Y方向
柱剛化	柱太さ		
	柱劣化		
その他	建物重量	建物が重いので、軽くすることによって評点を上げることができます。固定条件が積算法の場合、建物の部位ごとに重さを減らすことができます。	
	基礎		
	床倍率		

■解説

- 診断結果に対して、評点を上げるためのアドバイスが表示されます。
- 目標評点「1.0」、「1.5」が設定可能です。
- これらを参考にして、補強計画を作成することが可能です。
- 一般診断法、精密診断法の印刷で、補強アドバイスを印刷することができます。

4-5 耐震3Dビューア



■操作方法

▼通常時

- 上部構造評点や偏心率、各補強箇所を表します。

▼被害想定

- 耐震診断が想定する地震が発生した際に想定される被害状況をイメージで表します。

▼振動アニメーション

- 地震時の様子をアニメーションでリアルに表現します。
- 方向別に振動を与えられるので、どちらの方向の揺れに対して弱いかが分かります。

▼比較表示

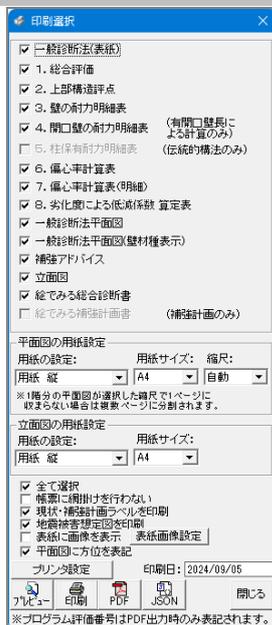
- 現状と補強計画を同時に表示します。
この状態で被害想定や振動アニメーションができるので、補強の効果を視覚的に表現することができます。

▼その他

- マウสดラッグで建物を回転させることができます。
- 表示設定で表示させたい部位の選択や屋根材、仕上材の表示を変更することができます。
- 「印刷」ボタンで通常時と被害想定 of 画像を印刷することができます。

※仕上材の変更を行うには、「プレゼンボード オプション」が必要です。

4-6 印刷

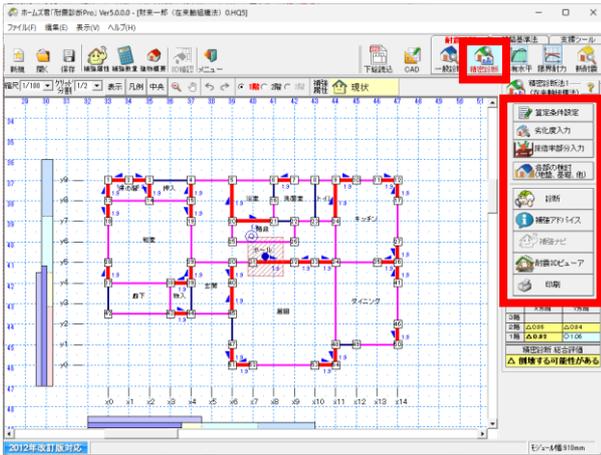


■操作方法

- 印刷する計算書を選択し、「プレビュー」または「印刷」をクリックします。
- 平面図は、A3、A4用紙に対応しています。

※「PDF出力」でPDFファイルを作成します。
※表紙に、写真などの画像を貼り付けることができます。

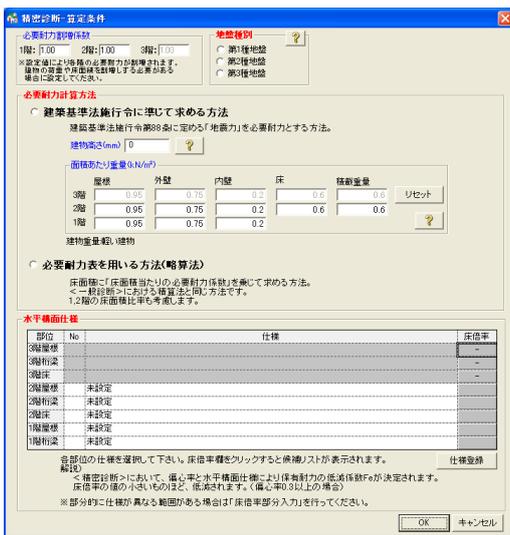
5 精密診断



精密診断法は、補強が必要かの最終的な判断を行うための診断方法です。また、補強後の耐震性の診断としても精密診断を行うこととされています。壁ごとの耐力を詳細に設定でき、さらに部位ごとの劣化度を考慮することで正確な耐力の診断が行えます。保有耐力計算は、「設計上の耐力」「偏心率」や「劣化度(部位毎)」を考慮し実際の耐力を計算しています。

総合評価は、一般診断と同じく階、方向ごとに「倒壊しない」から「倒壊する可能性が高い」の4段階で表されます。

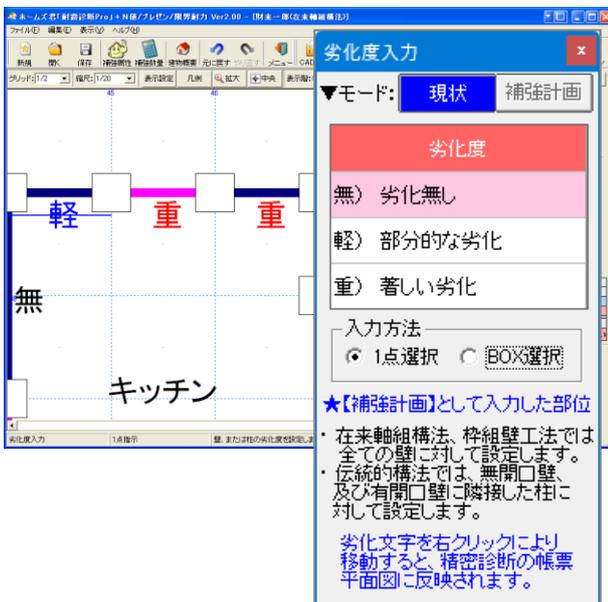
5-1 算定条件設定



■設定項目

- ▼地盤種別
- ▼必要耐力割増係数
- ▼必要耐力計算方法
 - ・「建築基準法施行令に準じて求める方法」の場合は、各階の面積あたりの重量を設定します。
- ▼水平構面仕様
 - ・各階の「屋根」「梁桁構面」「床」の仕様を設定します。

5-2 劣化度入力



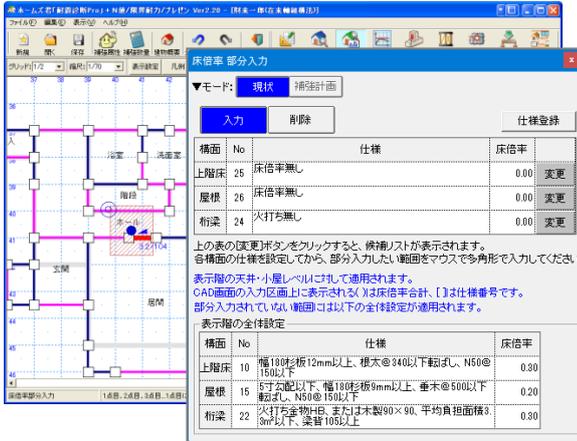
■入力方法

一般診断と異なり精密診断では、部位ごとに劣化度を入力します。

▼劣化度

- 「劣化無し」：対象部位に、劣化が認められない
- 「部分的な劣化」：対象部位に、部分的な劣化が認められる場合
- 「著しい劣化」：対象部位に、劣化が認められる

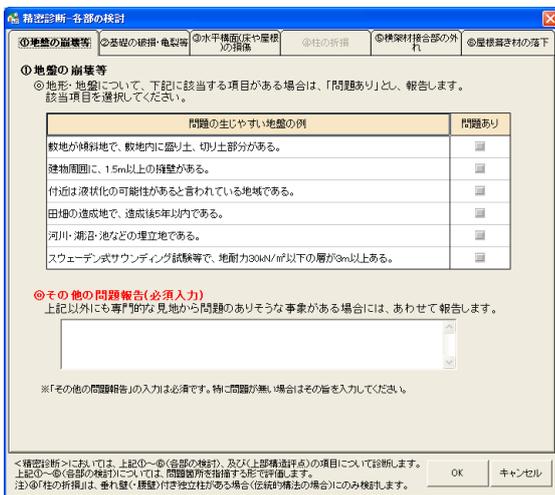
5-3 床倍率部分入力



■入力方法

- ①「入力」ボタンをクリックします。
- ②床倍率欄のボタンをクリックします。
- ③マウスでCAD画面上を多角形で入力します。
※多角形入力は、1点目に戻ると終了します。

5-4 各部の検討



■入力方法

下記の6項目について、調査結果を入力します。

- ①「地盤の崩壊等」
- ②「基礎の破損・亀裂等」
- ③「水平構面の損傷」
- ④「柱の折損」
- ⑤「構架材接合部の外れ」
- ⑥「屋根葺き材の落下」

該当する項目にチェックをし、特記事項、問題点を記入します。
その他の問題報告欄に入力された内容は、計算書にも印刷されます。

5-5 精密診断 (総合評価)



精密診断法1の診断結果が確認できます。

■上部構造評点

- 必要耐力と保有耐力から評点を求め、表示されます。
- どの階のどの方向が耐震性が低いかが一目で分かります。

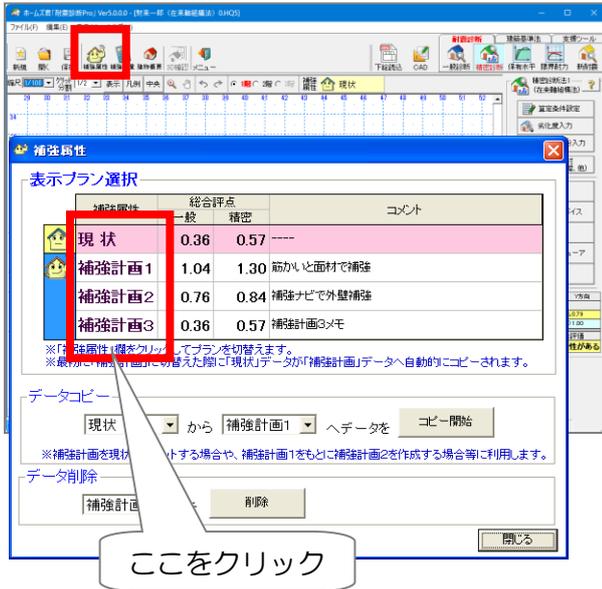
■その他注意事項

- 診断者からの注意事項などをテキスト入力可能で、計算書にも印刷されます。

補強アドバイス、地震被害想定、印刷については一般診断を参照ください。

6 補強機能

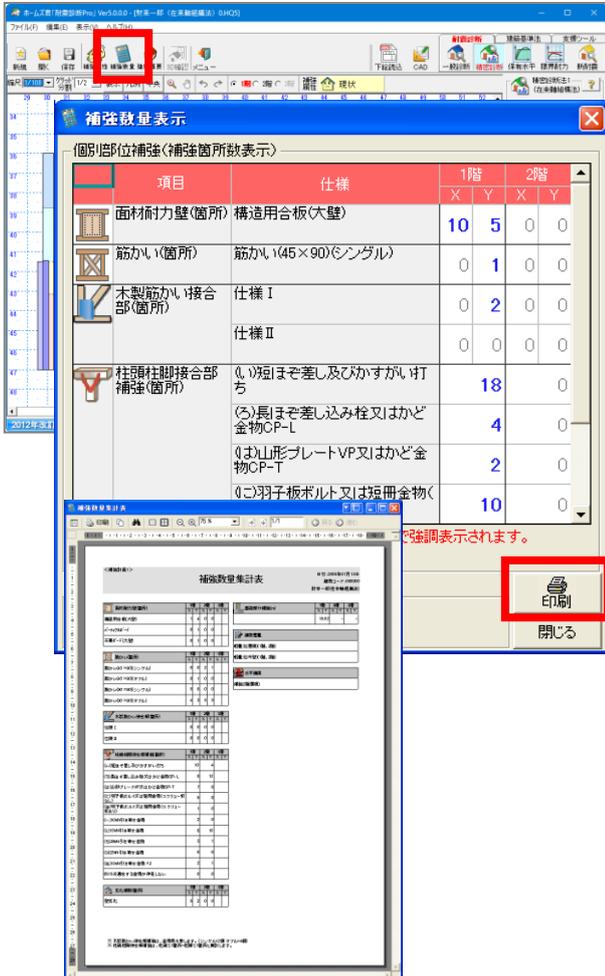
6-1 補強属性



■解説

- ここでプランの切り替えを行います。
- プランは、「現状」「補強計画 1～3」です。
- 各プランの一般診断、精密診断の評点が一覧表示されます。
- 「補強計画 1～3」は、コメントを記述することができます。
- 現状から補強計画に初めて切り替えた場合は、現状のプランが補強計画にコピーされます。
- 2回目以降はコピーされません。

6-2 補強数量集計表



■ポイント

- 補強として入力された箇所を種類毎に階別、方向別に一覧表示します。
※補強計画でのみ表示可能です。
※柱頭柱脚金物は、
- N値計算オプションありの場合は、金物毎に詳細数量が表示されます。
 - N値オプションが無しの場合は、金物仕様（I～IV）の集計となります。
- ▼各補強項目の行をクリックすると平面図上の対象箇所が強調表示されます。
- ▼印刷ボタンで、補強数量集計表が印刷可能です。

6-3 補強ナビ

条件設定

① 目標評点 **1.0** ※補強の目標評点を設定します。(0.5~2.0)

② 補強範囲設定 ※初期状態では建物全体が補強対象となっています。

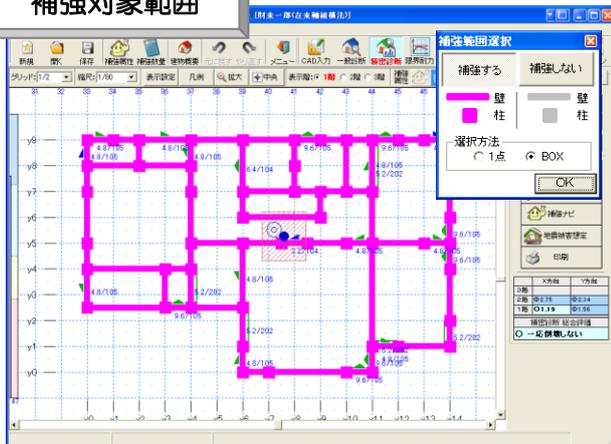
③ 補強方法選択

補強項目	補強する	解説
建物重量	<input type="checkbox"/>	建物重量を1.5倍軽減します。「非常に重い建物」の場合(重い建物)とします。
基礎	<input type="checkbox"/>	建物外周部の基礎を「基礎部分入力」によって「健全な鉄筋コンクリート基礎」とします。
柱頭柱脚接合部	<input type="checkbox"/>	既存の柱の接合部を補強します。柱脚により低減がかかっている柱のみ対象となります。
木製筋かい接合部	<input type="checkbox"/>	既存の木製筋かきの接合部を補強します。柱脚により低減がかかっている筋かいのみ対象となります。
筋かい(耐力壁)	<input type="checkbox"/>	筋かい(45×90) <input type="text" value="0.4"/> (kN/m)
内壁面材(耐力壁)	<input type="checkbox"/>	補強用合板(大) <input type="text" value="5.2"/> (kN/m)
外壁面材(耐力壁)	<input type="checkbox"/>	補強用合板(大) <input type="text" value="5.2"/> (kN/m)
内壁面材(非耐力壁)	<input type="checkbox"/>	補強用合板(非大-N508) <input type="text" value="0.1"/> (kN/m)

壁補強オプション
補強場所の柱頭柱脚接合部 入力済みの「補強」壁部材 ※壁補強の筋かい以下の箇所が追加対象となります。
筋かい:モジュール以下の柱頭面材:モジュールの柱頭

④

補強対象範囲



結果

補強項目・内容

補強項目	補強内容
建物重量	補強法:屋根材を軽い材料のものに変えました(「重い建物」の屋根相当)
壁劣化度	壁に影響する劣化を取り除きました。(1階29箇所、2階0箇所)
筋かい<ダブル>	「筋かい(45×90)」を追加しました。(1階6モジュール、2階0モジュール)

「補強項目」「補強内容」欄をクリックすると、クリックされた行の補強箇所がCAD図面上で強調表示されます。(壁、柱の補強のみ)

評点の変化

階	方向	補強前	補強後
3階	X		⇒
	Y		⇒
2階	X	1.66	⇒ 1.97
	Y	1.69	⇒ 2.00
1階	X	0.64	⇒ 1.00
	Y	0.84	⇒ 1.02
総合評点		0.64	⇒ 1.00

補強計画モードでは「補強ナビ」機能を使用することができます。「補強ナビ」機能は、診断の評点を上げるために効果的な補強を自動的に行う機能です。

▼条件設定

目標評点、補強対象範囲、補強方法の設定を行ってから、自動補強を実行します。

- ① 目標評点
 - 0.5~2.0 まで

- ② 補強範囲設定
 - 自動補強の範囲を設定します。
 - ※初期状態では、建物全体が対象範囲となっています。

- ③ 補強方法選択
 - 複数の補強方法を組み合わせることも可能です。

▼結果

自動補強が完了すると補強結果表示ウィンドウが表示されます。補強が行われた部位や補強による評点の変化を確認することができます。

「補強を適用」

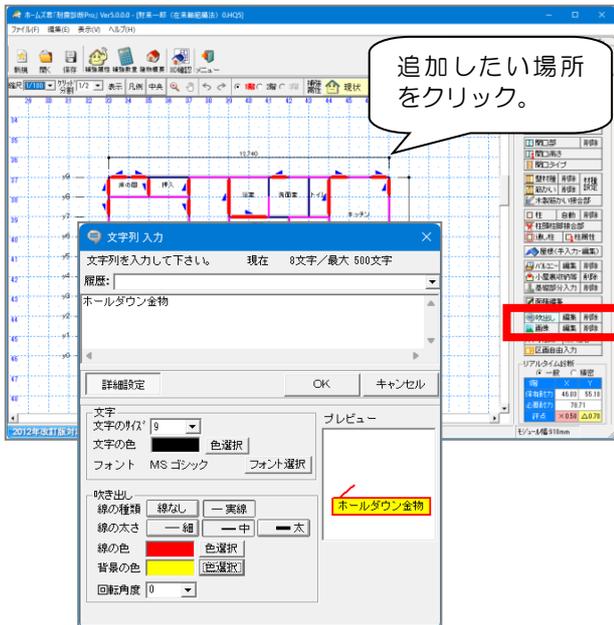
補強ナビの結果をデータに反映させます。

「キャンセル」

補強ナビの結果をキャンセルし、条件設定に戻ります。

7. 便利機能

7-1 吹き出し入力



■入力方法

▼入力

- 吹き出し線を2点入力すると、文字列入力ウィンドウが表示されます。
- 任意の文字列を入力し、フォント設定や吹き出し線の設定を行い、OK をクリックします。

▼編集

- 「編集」ボタンがクリックされた状態で、対象の吹き出しをクリックします。

▼移動方法

- 「吹き出し」ボタンが押された状態で、対象の吹き出しをクリックします。
- BOX 内をクリックすると BOX の移動、吹き出し線をクリックすると線の開始位置を移動することができます。

7-2 画像追加



■入力方法

▼画像の追加方法

- CAD 入力の「画像」ボタンをクリックします。
- 画像を追加する位置をクリックします。
⇒ 「画像の選択」画面が表示されます。
- 追加したい画像ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。
- 追加した画像の設定をします。
(枠線、色、回転、重なり)

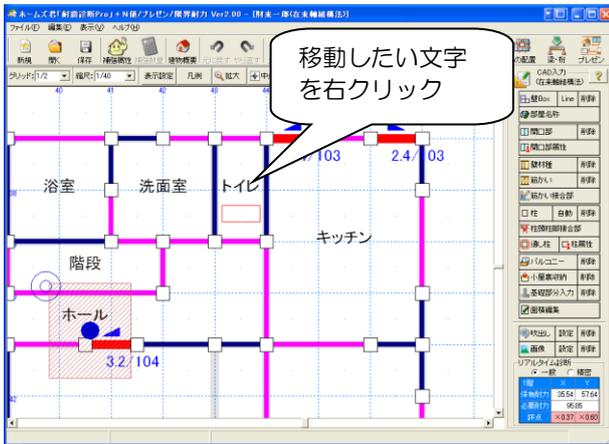
▼画像の移動、サイズ変更

- CAD 入力の「画像」ボタンをクリックします。
- 移動⇒画像の中心をクリックします。
- サイズ変更⇒画像右下のポインタをクリックします。

▼編集

- 「編集」ボタンをクリックし、対象の画像をクリックします。
⇒ 「画像編集」ウィンドウが表示されます。

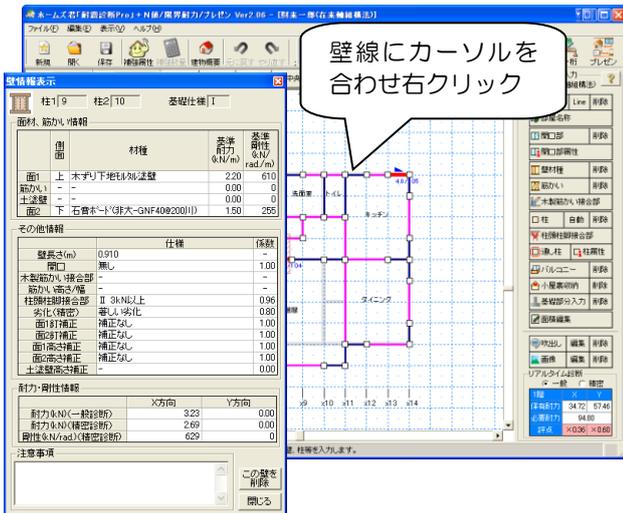
7-3 文字移動



■使い方

- CAD 図面の、移動したい文字列の上で右クリックします。
- 移動先で左クリックすると確定されます。

7-4 壁情報詳細表示

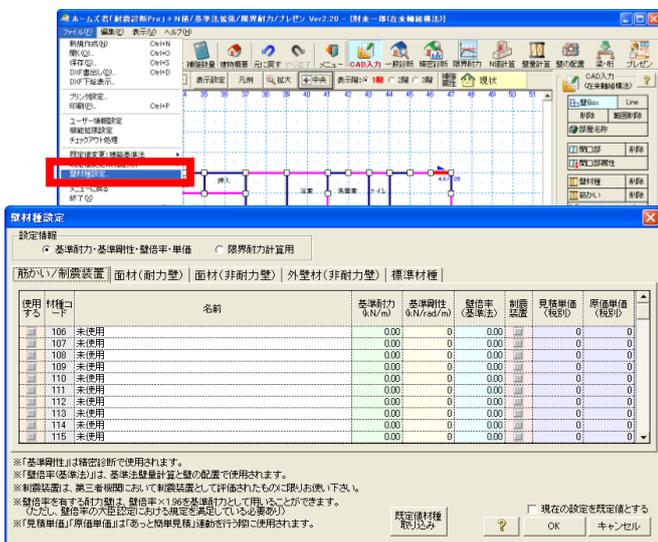


壁の耐力、開口情報、接合部情報、劣化状態、注意事項などを、まとめて確認することができます。

■使い方

- 確認したい壁の上で右クリックします。
- 表示した壁を、削除ボタンで直接削除することができます。
- 「注意事項」
壁長さの制限など注意事項が表示されます。

7-5 壁材種設定



■設定方法

【ファイル】メニューの「壁材種設定」をクリックします。

▼ユーザー定義壁材

- 壁材種を追加設定することができます。

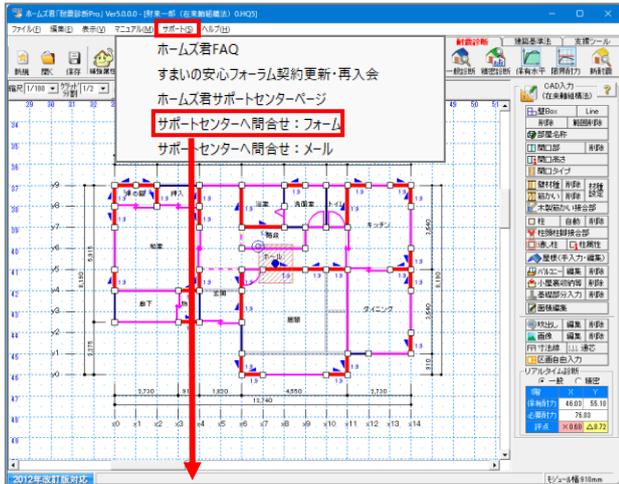
▼標準部材

- 材種の一覧に表示させたくない場合は、「使用する」チェックを外します。

▼限界耐力計算用

- 限界耐力計算(オプション)で使用する、部材ごとの標準骨格曲線を設定します。

7-6 サポートへメール送信



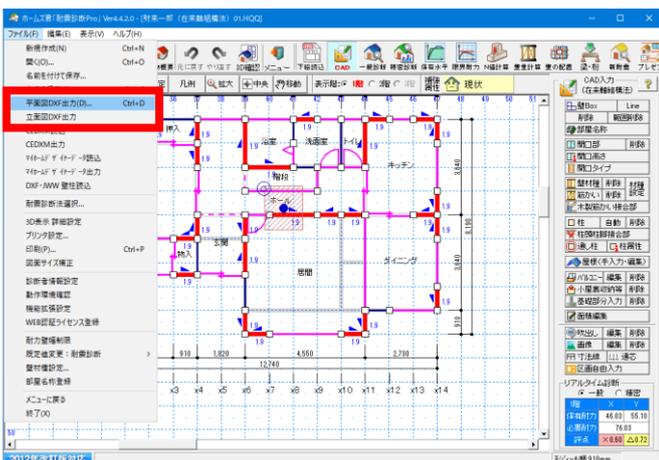
■使い方

▼メニューの「サポート」→「サポートセンターへ問合せ: フォーム」を選びます。

▼ホームズ君サポートセンターお問合せフォームお問合せ内容および該当の物件データ（複数選択可能）をサポートセンターに送信することが可能です。



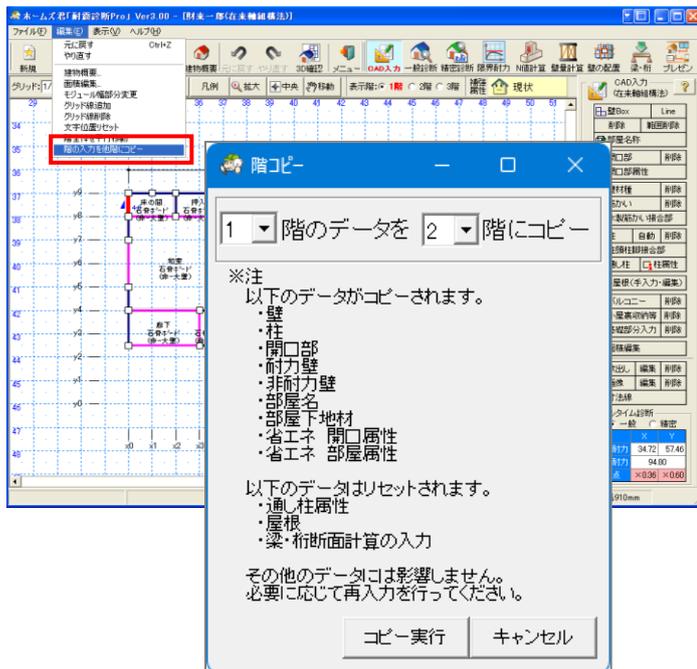
7-7 DXFファイル出力



■DXF ファイル出力

- 入力した建物の平面図・立面図を DXF ファイルに保存することができます。
- 保存した DXF ファイルは他の CAD ソフトで読み込んで使用することができます。
- メニューの「ファイル」→「平面図 DXF 出力」または「立面図 DXF 出力」を選んでから、保存先を指定します。
- DXF ファイルには壁、開口部、耐力壁、筋かい記号、部屋名、通り芯が出力されます。

7-8 階のCAD入力を他の階にコピーする



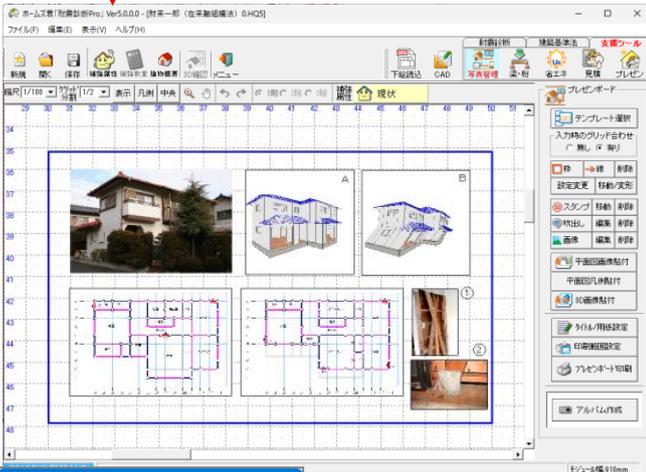
CAD 入力した図面を、他の階にコピーすることができます。

■使い方

- 【編集】メニューの「階の入力を他階にコピー」をクリックします。
- コピー元の階とコピー先の階を選択します。
- 【コピー実行】ボタンをクリックします。

8 プレゼンボード<オプション>

8-1 プレゼンボード



施主に視覚的で分かりやすい提案ができます。

■使用方法

▼テンプレート選択

- ・4つのテンプレートから1つを選択します。

▼枠、線

- ・枠(矩形)、線(矢印)を自由に追加することができます。
- ・設定画面で、線の色、線の太さを設定し、マウスで2点入力します。

▼スタンプ

- ・画面上をクリックするだけで連番を打つことができます。
- 種類は「O数字」「いろは」「ABC」「ⅠⅡⅢ」「一ニ三」
- ・色とフォントサイズが設定できます。

▼吹出し、画像

- ・P.17 便利機能の「吹出し、画像」をご参照ください。

▼平面図画像貼付

- ・現在開いているデータの平面図画像を自動作成し、画面上に貼り付けます。

▼平面図凡例貼付

- ・平面図凡例を作成し、画面上に貼り付けます。

▼3D画像貼付

- ・現在開いているデータの3D画像を自動作成し、画面上に貼り付けます。

▼タイトル/用紙設定

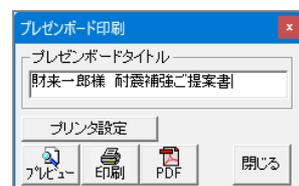
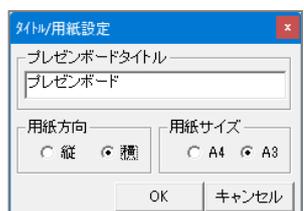
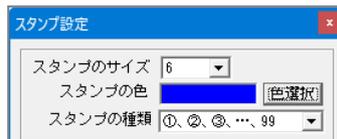
- ・印刷時のタイトルと用紙の向き、サイズを設定します。

▼印刷範囲設定

- ・2点入力で設定します。
- ・印刷する範囲を設定します。
- ・青線で囲まれた範囲のみ印刷されます。

▼プレゼンボード印刷

- ・印刷プレビュー・印刷・PDF ファイル出力をします。



8-2 アルバム



▼写真や画像にコメントをつけて最大200枚まで管理できます。現地調査時の写真を診断書に添付する場合などに役立ちます。

▼使用方法

[プレゼン]→[アルバム作成]の順にクリック

▼画像を一括で取り込む場合

- 「一括読み込み」ボタンをクリック
- フォルダを選択し、OKをクリック
- 読み込む画像の確認を行い、
[取り込み実行(既存リセット)]あるいは
[取り込み実行(既存に追加)]をクリック。
- フォルダ内の画像ファイルが、名前順に取り込まれます。(最大200枚)

▼画像を1枚ずつ取り込む場合

- 「読み込み」ボタンをクリック
 - 取り込みたい画像を選択します。
 - 画像が取り込まれて表示されます。
- ※画像ファイルをドラッグドロップしても読み込むことができます。

▼画像並べ替え

- 画像を並べ替えを行うことができます。
- 「画像並べ替え」をクリックして、並べ替え元・並べ替え先の順に行をクリックします。

▼画像タイトル、コメント

- 画像毎にタイトル、コメントを入力することができます。
- タイトルは、画像ファイル名が初期設定されます。

▼帳票タイトル

- 印刷する際のタイトルを設定します。

▼コメント欄

- 印刷時に各画像のコメント欄を非表示とすることができます。
- ※コメント欄を非表示にすると、1ページの表示画像数が倍増します。

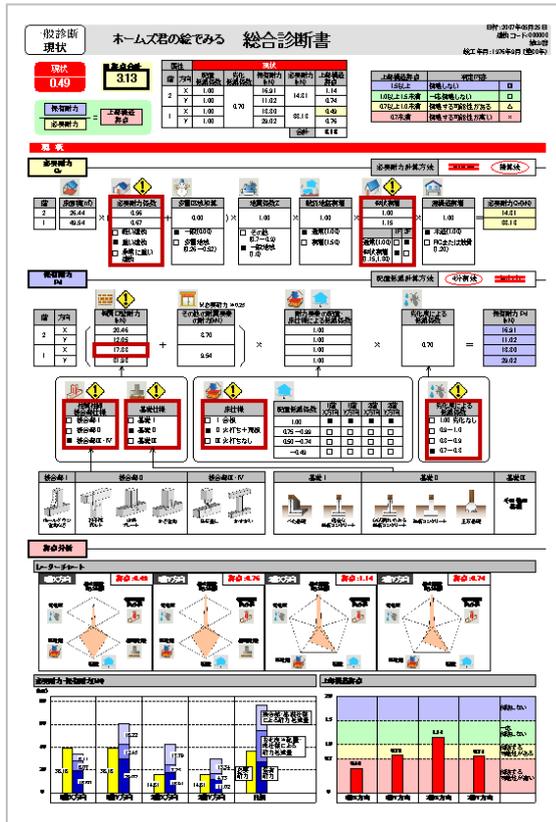
▼1ページあたり画像数

- 1ページの画像数により画像の表示サイズが変化します。

▼印刷プレビュー

- アルバムを印刷します。

8-3 絵でみる総合診断書



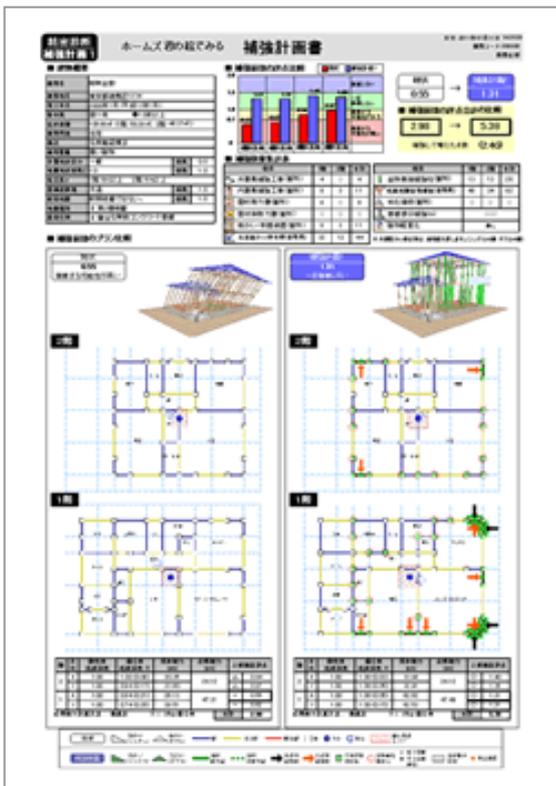
■解説

- 耐震診断結果や補強設計後の評点を画像やグラフで分かりやすく表現します。施主の方でも評点の根拠や改修すべき点が一目で確認できます。

■操作方法

- 一般診断／精密診断の印刷画面よりプリントアウトが可能です。

8-4 絵でみる補強計画書



■解説

- 現状(補強前)と補強計画(補強後)の評点比較や補強数量表、補強箇所を表示します。施主の方でも評点の根拠や改修すべき点が一目で確認できます。

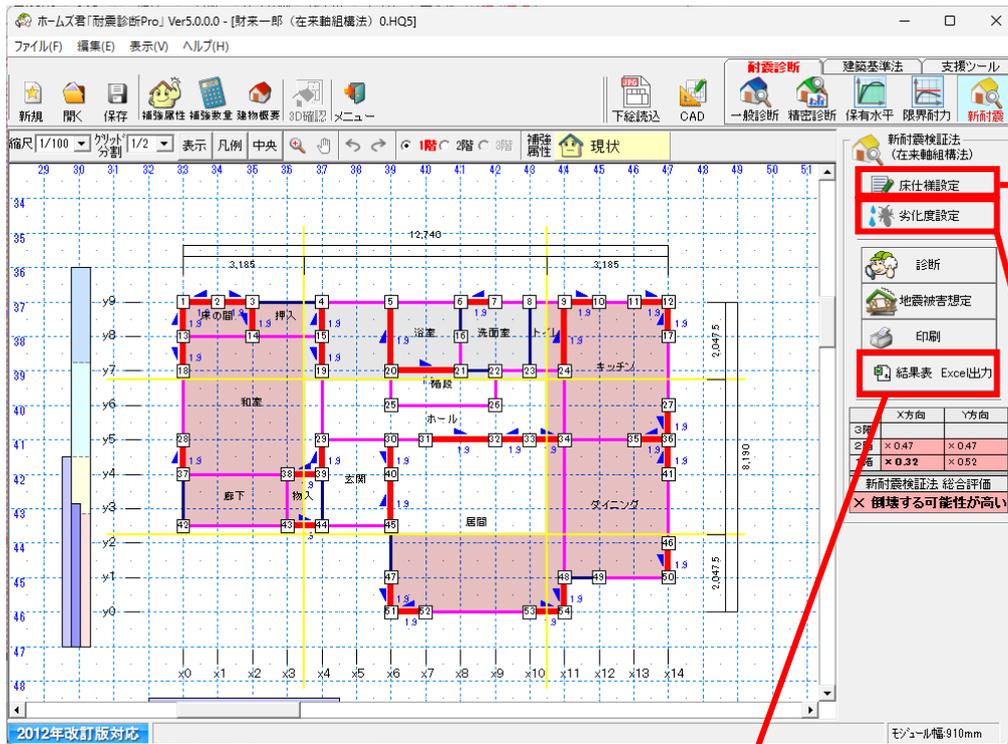
■操作方法

- 一般診断／精密診断の印刷画面よりプリントアウトが可能です。

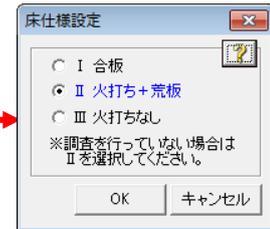
9 新耐震検証法<オプション>

※新耐震検証法の機能を使用するには、「新耐震検証法」オプションが必要です。

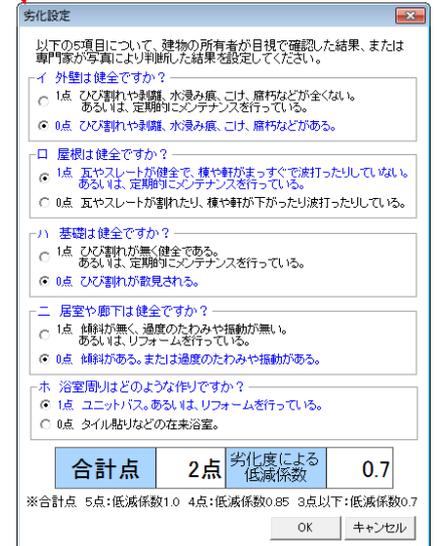
「新耐震検証法」オプションは、2017年5月に国土交通省および（一財）日本建築防災協会から公表された、『新耐震基準の木造住宅の耐震性能検証法』（略して、新耐震木造住宅検証法）に対応したオプション機能です。新耐震木造住宅検証法では、「一般診断法に準じた方法」にて、上部構造評点を計算します。また、施主への報告用に、診断結果をまとめた「結果表」（Excel ファイル）を印刷することができます。



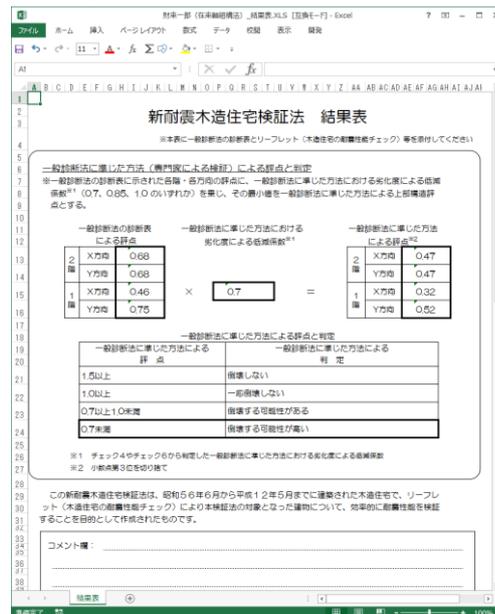
▼床仕様設定



▼劣化度設定



▼結果表 Excel出力



操作方法等の詳細は、ホームズ君「耐震診断 Pro」の「マニュアル」から、「ユーザーズマニュアル」を参照ください。

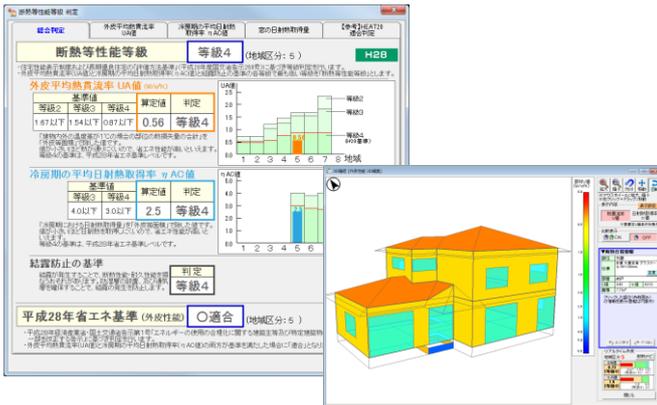
10 省エネルギー対策<別売ソフト>

※省エネルギー対策の機能を使用するには、別ソフトのホームズ君「省エネ診断 エキスパート」が必要です。

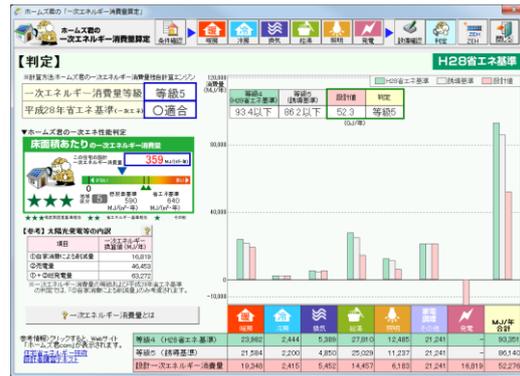


ホームズ君「省エネ診断 エキスパート」は、最新の平成28年省エネ基準に対応したソフトウェアです。「外皮平均熱貫流率(UA値)」と「冷房期の平均日射熱取得率(η AC値)」の外皮性能や一次エネルギー消費量を計算できます。断熱等性能等級、一次エネルギー消費量等級の判定も行えます。また、ホームズ君「パッシブ設計オプション」を追加することで、敷地条件や気象条件などを考慮しながら通風・昼光・日射熱などを検討するパッシブ設計や、室温・動的熱負荷計算も可能です。

▼外皮性能 (UA値、 η AC値) の計算・等級判定



▼一次エネルギー消費量の計算・等級判定



▼ホームズ君「パッシブ設計オプション」



ホームズ君「パッシブ設計オプション」は、気象条件や敷地条件を考慮しながら、太陽の光や熱、風などの自然エネルギーの活用、外皮の高断熱化、省エネルギー設備の3つを組み合わせる「パッシブ設計」を支援するソフトです。全国836地点の気象データがついています。室温・動的熱負荷計算も可能です。

※ホームズ君「パッシブ設計オプション」は、ホームズ君「省エネ診断 エキスパート」と連動します。ホームズ君「省エネ診断 Light」とは連動しません。

▼ホームズ君「耐震診断Pro」との連動



ホームズ君「省エネ診断 エキスパート」は、ホームズ君「耐震診断Pro」からのデータ連動で起動することが可能です。以下の項目が引き継がれます。

- ・建物概要 (階数・方位)
- ・CAD入力 (壁や開口)

詳細は、ホームズ君「省エネ診断 エキスパート」に付属している「操作マニュアル(省エネ判定・平成28年省エネ基準)」および「操作マニュアル(パッシブ設計オプション)」を参照ください。

1.1 注意点

プログラム評価について

ホームズ君「耐震診断 Pro」は、(一財)日本建築防災協会『木造住宅耐震診断プログラム評価』の取得しております。ただし、ホームズ君「耐震診断 Pro」の全ての機能が評価の対象ではありませんので、ご注意ください。

また、プログラム評価の取得バージョンは **Ver.4.4** です。

Ver.5.0はプログラム評価を申請中ですが、現時点では評価を取得していません。自治体への補助金申請など、プログラム評価を取得したソフトの計算書が必要な場合は、評価取得版である Ver.4.4 をご利用ください。

▼プログラム評価の取得バージョン

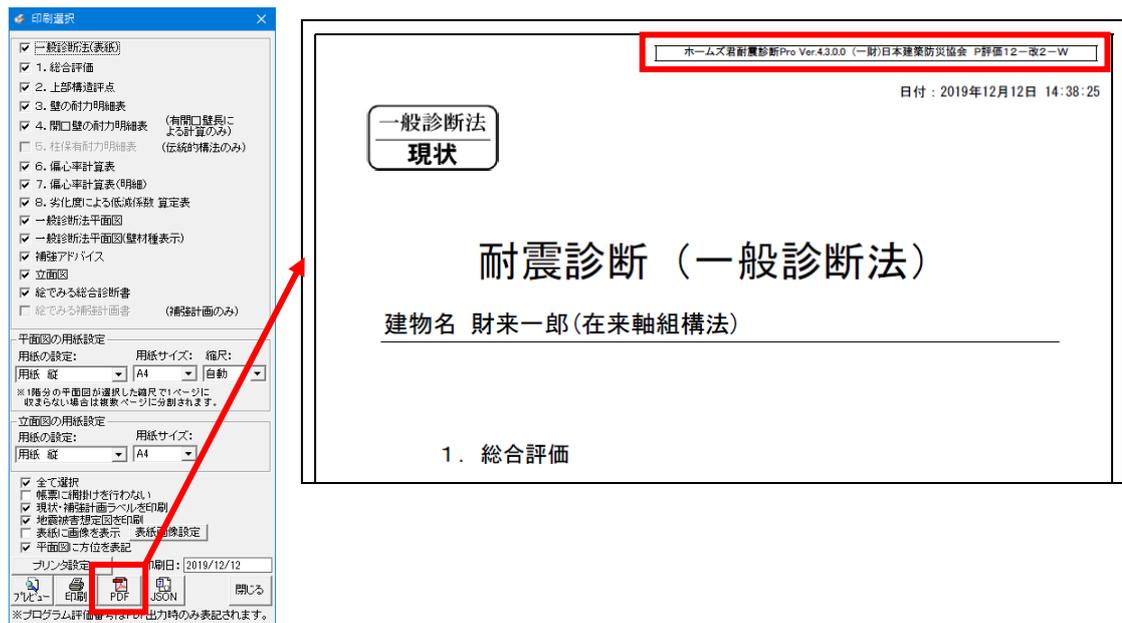
- Ver4.4

▼評価対象

- 「一般診断法（各階の床面積比を考慮した方法/総2 階を想定した方法）」
- 「精密診断法1（建築基準法施行令に準じて求める方法/必要耐力表を用いる方法）」

プログラム評価番号は、部分的な編集ができないPDF形式での出力の際にのみ印字されます。

PDF形式なら、再印刷の際にも評点や日時、バージョンも前回診断を行った時点の状態がそのまま再現されます。



また、以下の項目がプログラム評価番号を印字する場合の必須入力項目となっております。

▼ 必須入力項目

- 「一般診断」地盤・基礎の注意事項、総合評価の注意事項（一般診断 総合評価画面で入力してください）
- 「精密診断法1」地盤の崩壊等に関する問題報告（精密診断1 各部の検討画面で入力してください）

メモ

■ユーザーサポート

お問い合わせ先：ホームズ君サポートセンター

サービス時間：【平日】10:00～12:00、13:00～17:00

メールアドレス：homes-support@integral.co.jp

電話番号：050-3104-6477

FAX番号：029-850-3334

※お問い合わせ前に、サポートページ(<https://www.homeskun-f.com/support/>)、
ホームズ君FAQ(<https://faq.homeskun.jp/>) もご参照ください。

■ホームズ君マイページ (<https://mypage.homeskun.jp/auth/login>)

▼ホームズ君シリーズのユーザー様全員が利用可能です。

▼できること

- ・お客様の登録情報の確認、変更
- ・ホームズ君シリーズの購入履歴・シリアル番号の確認
- ・最新の更新プログラムの確認およびダウンロード※
- ・「ホームズ君すまいの安心フォーラム」会員専用コンテンツの閲覧※
※「ホームズ君すまいの安心フォーラム」へのご入会が必要です。
(年会費¥40,000 [税別])

住宅性能診断士ホームズ君「耐震診断 Pro」 簡単マニュアル

2005年 3月11日 初版発行

2025年 2月 7日 第29版発行

著作/発行 株式会社インテグラル

茨城県つくば市学園南2丁目7番地

TEL:029-850-3331

FAX:029-850-3334

<https://www.integral.co.jp/>

無断転載を禁ず